

272-90  
1200501356997

272  
90



始



文部省實業學務局長 木村正義序  
山口縣女子師範學校訓導 守田保著

# 實際的職業指導法



東京大阪 東洋圖書株式會社發行

272-90

## 序

教育の實際化、職業教育の尊重は内外教育界の趨勢である。さきに改正發布せられたる中學校令施行規則に於ては課程を第一種及び第二種に分ち、更に第一種の實業科目を農工商の各種に分ち、生徒の志望に基きその一を選定せしめ得るやうに定めたるが如き、又實業學校をはじめ中學校師範學校に公民科を設置して生徒將來の實生活に即せしめたるが如きはその例である。

近時小學校に於ても亦兒童各自の個性を尊重し、之が調査を重んじ、適切なる職業指導を施して學校教育をして實際的ならしめんとするは内外教育界の思潮である。

本書の著者守田保君は稀に觀るところの眞摯熱心なる實際教育家にして常に廣く内外の文献を涉獵すると共に實際的科學的に研究を續けらるゝ有爲の志である。君の前著「實際的個性調査法」がよく天下の識者間に好評を博し既に十數版を重ねたる事實はこの間の消息を如實に證するものと言ふべきである。

本書は同君が最近数年間の蘊蓄を披瀝されたる著作にして、一面内外の文献を漁るとともに前著『實際的個性調査法』に基き自ら教へ子に職業指導を實施し體驗を重ねられたる實際的にして而も科學的なる研究物である。

此の種多くの著書が外國に於ける研究の紹介を主とする間にあつて本書が實際的にして而も我が國小學校に於ける職業指導の具體的方案を詳示されたるは初等教育に於ける職業指導の實際的方法に惱む士に對し必ずやよき伴侶となるものと信じて敢て大方に推薦する所以である。

昭和六年六月五日

文部省實業學務局長

木村正義識す

## 自序

學校に於ける職業指導の問題は其の聲は相當高いけれども、其の理念も方法も一般には不徹底の状態にある様である。一方には非常に狹義に考へて學校卒業時適職へ指導し紹介する事のみだと解する者があり、他の方には學校教育全體が職業指導だと解する向きもあり、随つて其の施設や教材に迷ひ遂に何もなさぬといつた現状にある様である。甚だ遺憾な事である。本書を世に出すのはこの間にありて少しでも考察研究の資料にもとてである。

矢張り學校の教育へこれを導入して施設をなすからには、それが教育的理念によりて統制されて居なければ到底行はれるものではない。著者は『教育は個性調査に初まり職業指導に完成する』とのスローガンを大膽に叫ぶ程の自信を持つ。教育は兒童の個性を知る事に始まり、日々の教育が個性の上に徹底して進み最後に個性に適した職業に就き人格實現をなす事に終結すべきだと思ふ。個性尊重の教育とはこれを言ふのである。立派な公民の教養を目指しての教育は必

ず職業指導まで進まなければならない。

著者は三年前實際的個性調査法を著し、其の中に於て次には個性に徹する教育とは何か、如何にすべきかに就て書く事を約束した。而して着々其の計劃を進めて居た。勿論職業指導の事も亦其の中の一部である。然るに東洋圖書株式合資會社の社長永田與三郎氏の薦めにより職業指導法だけを先づ一冊に纏めて出す事にした。個に徹する教育といふ著は更に後の時を期したい。

本書を出すに當り公民教育及び職業教育について我が國第一の權威者である文部省實業學務局長木村正義先生の序文をいたゞいた事を著者無上の光榮として謹しみて感謝の意を表するものである。

昭和六年六月上旬

守田保

凡例

- 一 小學校に於ける職業指導については大體各方面にわたり述べつくした。補習學校や中等學校に於ける職業指導もまづこれ以外に大して變つた方案はない。各種の學校に當てはまると信ずる。
- 二 著者自身の獨斷に陥る事を恐れて、大抵の斯の方面の書籍は目を透し、一方著者の實驗と意見とを加へて纏めたものである。必ず參考になるものと信じて居る。
- 三 著者は地方の講習會に於て屢職業指導の講義をした。それがため資料は早くより色々集めて居た。随つて纏める事は容易であつた。愈執筆してからは九十日で脱稿した。
- 四 本書は大體二編より成る。第一編は理論篇で第二編は實際篇である。斯種の著書は既に數十種の多きが中に本書を出す所以は全く實際篇に特色があるのである。

凡例  
 五 特に第七章第八章第九章は本書の主眼点である。最も力を入れてあるところである。

# 實際的職業指導法 目次

## 第一篇 理論之部

第一章 緒論	二
第一節 教育思潮の時代相	二
第二節 職業指導概言	五
第二章 職業指導の意義	七
第一節 職業指導の意義	七
第二節 職業教育の意義	九
第三節 適職指導の意義	一〇
第四節 進學指導の意義	一一
目次	七

第五節 職業紹介の意義……………二

第六節 適性考査の意義……………三

第三章 職業指導の主旨……………四

第一節 個人と職業……………四

第二節 社會と職業……………六

第三節 人の數と職業の數……………八

第四節 適性と不適性……………一〇

第五節 よき日本人……………三

第四章 職業指導研究の沿革……………四

第五章 小學校に於ける職業指導……………三

第一節 一般陶冶と職業指導……………三

第二節 女子學級と職業指導……………五

第三節 小學校に於ける職業指導……………六

第四節 其の他の學校と職業指導……………八

第二篇 實際の部

第六章 小學校に於ける職業指導の範圍と方法……………四

第七章 職業指導(其の一)……………五

(從來の教科内容のまゝにてなす方面)

第一節 職業指導と各科の留意點……………五

- 一般方針 修身科—讀方科—綴方科—書方科—算術科—
- 國史科—地理科—理科—圖畫科—唱歌科—體操科—手工
- 科—裁縫科—家事科—英語科—實業科

第二節 各科の内容と職業指導……………六

國語讀本にある職業指導的資料—修身教科書にある職業

心得に關する教材—國史教科書に現れた職業的資料—地理教科書にあらはれた職業的教材—理科教科書にあらはれた職業的教材—算術教科書にあらはれた職業的教材—其の他

第三節 職業的訓練..... 101

第八章 職業指導(其の二)..... 109

(特に職業指導のため施設するもの)

第一節 職業指導講話..... 109

時期と時間—方法と内容—職業指導講話要目—職業指導講話細目

第二節 職業講話..... 118

講話者—豫定案—實施方法

第三節 讀物による職業指導..... 113

備付方法—書籍實例

第四節 職業參觀..... 120

時期と方法—參觀の方法—參觀場所實例

第五節 職業參加..... 150

職業參加希望兒童募集—商店工場へ依頼狀發送—商店工場へ紹介—教師の訪問指導—實習終了後の所置指導

第六節 職業調査..... 155

分類調査—職業々態調査—卒業生就職狀況調査—其の他各種調査

第七節 職業志望調査..... 162

第八節 職業指導諸施設..... 166

第九章 適職指導..... 169

第一節 適職指導の意義と困難..... 169

人と職業とを結ぶ二つの態度—職業の數と分化—適職指導の困難



第二節 職業選定の條件……………一七

性能—興味希望—資格學歷—境遇—經濟—職業界事情—  
社會的意義—其他

第三節 個性研究……………一八二

性能研究—職業的個性型の研究—性能圖示の問題—性能  
検査器械—職業指導個性調査票

第四節 職業研究……………二六三

職業の分化—職業分析—職業の社會的研究—職業研究に  
對する教師の常識

第五節 郷土研究……………二八七

郷土の自然と社會—實例

第六節 積極指導と消極指導……………二九六

兒童の全部と一部—兒童に職業豫選の有無—適職か不適  
職か—適職指導の體系

第七節 就職後の指導と鞭撻……………三〇四

卒業生指導—卒業生の行衛—指導鞭撻の機會と方法—手  
紙による指導—指導鞭撻の内容

第八節 女子と職業指導……………三二六

女子と職業の種類—女子學級に於ける職業指導

第十章 適性考查……………三三三

第一節 意義と方法……………三三三

適性考查順序

第二節 實施の概況……………三三六

第十一章 進學指導……………三三一

進學希望者の資格—學校選定—進學指導の時期と方法

第十二章 職業紹介……………三三九

第一節 直接紹介……………三三〇

第二節 職業紹介所……………三三二

職業紹介法—聯絡要領

第十三章 保護者指導 ..... 三五

保護者懇話會—家庭訪問—通信指導—成人教育

第十四章 職業指導室 ..... 三六

備付くべきもの—利用法

第十五章 職業指導に關する事務と簿册類 ..... 三七〇

事務—簿册類

第十六章 職業指導係 ..... 三六四

其の任務—其の適性—其の修養

第十七章 結論 ..... 三七二

(終)



第一篇

理論之部

## 第一章 緒論

## 第一節 教育思潮の時代相

教育界に漂ふ時代思潮は教育運動の根基となり、其の考へ方や、其の具體の方法の上に常に影響を與へて居る事は言ふまでもない事であるが、思潮といふ文字の示す如く常に流動してゐて止る事のないものである。而して此の思潮は一般の時代思潮ともいふべきものの影響を享けて動きつゝあるものである。唯教育の事は生活問題や人間本能の尖端をゆく各種の問題の如く急激の變化を見せず、それ等の方面にあらはれた思潮が漸定的に深入するものである。性質上教育は非常に保守的であり、矯正的であり、批判的であり、用心深い態度にあるために時代思潮のまゝを急に反響する事は少い。しかしながら漸次其の影響をうけて動揺しつゝある事實を見逃すことは出来ない。本書に述べる職業指導の如きは割合早く時代の思潮を反影したと見るべきであらう。初めてポケイシヨナ

ルガイダンスなる文字が新聞紙等に現れたのは今から十餘年前に過ぎない。然し一方に生活問題の逼迫があり、産業合理化科學化の問題があり、學校教育の實用化的反省があり、これ等の刺戟により急に教育界に研究實施の叫びとなつてあらはれたものである。近時の教育界の思潮が如何に動きつゝあるかを今少し審に考へて之れが職業指導と如何に關連したかを考究して見よう。

先づ論理を明瞭にするために近代の教育が批難されつゝある方面を數へ舉げて見る事にする。

第一に明治以來の教育があまりに智育に偏して居たとの批難がある。兒童はキチンと机について教科書と教師の説話とのみで教育が行はれて居た。全く書物學校だとの批難である。勿論歐米のそれから見れば數百年も後れた文化を僅かの年月の間に駈足で追つつく爲には止むを得ぬしかも最も賢明な方法であつたのではあるが、確かに模倣主義の偏智教育であつた。この反動としてあらはれたものが藝術主義の教育であり、作業尊重の體驗教育を爲教育勤勞教育である。第二には教育制度があまりに劃一であるとの批難である。東京の中央から樺太臺灣の果までも同一の法令と同一の教科書が強いられて少しのゆとりもない。統一は美しいが劃一は決して美しいものではない。形式を整へる劃一には實質内容に無理を生ずるのは明かな事である。教科書が二種三種とあらはれたり、郷土主義の教育が唱へられるなどこの反動と見られる。

教育制度が劃一に過ぎるばかりでなく児童生徒をも劃一に見たといふ批難は教育批難の第三である。六十人七十人の児童を同一教室に並べて上すべりの一斉教授で終始した。個人差による何等の考慮も加へられて居なかつた。個性尊重が叫ばれ個性調査の必要が唱へられたのも其の反動と見られる。

一般陶冶過尊重の弊は教育批難の第四である。小學校教育は國民教育の基礎である。將來何れの職業を持つか見極めつかぬ児童を相手の教育であるといふので所謂一般陶冶のみすればよいと考へられて居た。一般陶冶とか基礎陶冶とかいふ名のもとに内容のない形式の教育をして居る、内容は實際人生であり職業である。こゝに其の反動として生活指導の教育職業教育職業指導が叫ばれる様になつた。これと關聯して生活と没交渉の教育が行はれて居るとの批難は批難の第五である。極端にも教育亡國を叫ぶ人さへ出て來た。二次方程式は解け立體幾何は知つて居るが店頭で買物をした計算は出來ず、電話器の構造は知つて居るが電話はかけ得ぬ。和歌俳句は作つても手紙一本書けないなどとの批難である。こゝ等から實用主義の教育が尊重されて來た。

其の他物質文明に眩惑された唯物主義の弊も數へられ精神主義が叫ばれ、國史に歸れの考へと相通じて皇國主義なども叫ばれて居る。右は現代の教育に與へられた批難の二三とこれが反動として出た現代思想の一瞥である。職業指導はこれ等の間に萌芽を持つものである。

## 第二節 職業指導概言

偏智主智教育の反動としてあらはれた作爲教育・勤勞教育、劃一教育の反動としてあらわれた郷土主義や個性尊重の教育、一般陶冶基礎陶冶過尊重の反動としてあらはれた生活尊重の教育思想等々は何れも職業指導教育が播種されて發芽するには最もよき苗床となつた。加ふるに生活の複雑化があり、經濟の壓迫より來る職業戦線の混亂と就職の苦惱、科學の進歩による産業の合理化科學化の運動、人的資源に對する着眼等のよりよき條件あり、更に加ふるにこれ等の條件によりて醸成されたとも考へられる現實主義的の時代思潮、これ等色々の原因がこんがらがつて、人間生活といふもの、職業といふものに極度の關心を持つ様になり、小學校に於ても在學中より若干職業についての識見を養ひ、卒業後の指導補導をしなければならぬといふ思想は自ら生れ出る様になつた。

識者の間には既に早くから學校教育に職業指導をとり入れるべき必要と理由とを抱いて居た者もあつて久しく生みの悩みをして居た。そこへ職業戦線に於ける混亂と苦惱とあり、内務系統行政系

統の方面から職業と人間とをくつつけるべき研究が行はれ、職業紹介所法の如き法律となつてあらはれた。これは今から十年ばかり前の事である。かくて行政系統の機關として中央地方職業紹介事務局が出来、地方自治體には公設職業紹介所が出来、それ／＼専門家によりて職業紹介が行はれる様になつた。更に進んで職業紹介所は學校との連絡提携を求めるといふ有様で、寧ろ學校は實社會及行政方面からの誘導觸發によりて職業に着眼した形がある。しかし前述した様に既に内に充分に出来上つた苗床があつたが故に職業指導の事が直ちに發芽し生育し出した形である。そこへドイツあたり歐洲戦後の國力恢復の悩みに醸された實利的教育による研究も輸入されて、職業指導の必要は大きな教育運動となつてあらはれた。

今や職業指導は議論の時代、研究の時代を通り越した。實施の時代である。唯如何なる材料を如何なる方法で如何なる人が、何時、實施すべきかを研究すればよい。本書が若干でもその答への參考になれば幸甚である。

## 第二章 職業指導の意義

### 第一節 職業指導の意義

本論に入る前に職業指導・職業教育・適職指導・進學指導・職業紹介・適性考査等本書として極めて屢用ふる語彙の意味を考へて、其の概念を確定して置く事を必要と考へる。かゝる文字語句は書籍により、雜誌により、使ふ場合により、使ふ人によりて多少異なる意義を持たせる場合が少なくない。かくてはかゝる文字語句を使ふ場合に一々其の意味解釋に註を加へる必要があるからである。以下にこれ等の意義を大體確定して置かうと思ふ。

先づ職業指導といふ意味であるが、これが従來二つの意義に使用されて居る。廣義には小學校に於ける職業の陶冶も職業の教育も乃至は卒業後の適職への指導も一切を包含して使用して居る。本書の書名となつて居る實際的職業指導法の所謂職業指導も亦この極廣義にとつて居るものである。然

るに本来この文字の起りはそうではなくて狭義のもので、人と其の適職とを結びつけるための指導をいつたものである。これは米國ボストンの市民相談所のフランク・パーソンズ氏 (Frank Parsons) が一九〇八年五月に其の相談所から出した報告に初めてボケーションナル・ガイダンス (Vocational Guidance) なる語を使用した。之れが邦譯されて職業指導なる文字となつたものである。昭和二年十一月文部省訓令第二十號で出た児童生徒の個性尊重及職業指導に關する件といふ訓令の職業指導も亦この狭義に解釋してある様である。それは訓令の文句に『更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス云々』又『各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス云々』とあるを見て了解される。即ち元來この文字の起原はそこにあつたのであるがこれが小學校を對照に考へる時には適職への指導をなす爲めには先づ児童に充分職業についての理解を持たせねばならず、職業的の訓練もしなければ其の効果を完うする事が出来ないといふ理由から段々廣義に包括して使はれる様になつたものである。そこで本書ではすべて職業指導といふ場合は廣義にとり、狭義の意味即ち適職を見出して、指導することの爲めには別の文字を用ふる事にする。それは適職指導といふ文字である。かく區別する事は本書獨得の使用ではなく世には既にかく使ひわけて居る者も少くない。

## 第二節 職業教育の意義

この文字にも亦廣狹二義がある。職業的知識の賦與、職業的訓練一切を包含して職業教育といふいひ方、即ち小學校の職業的陶冶一切——これは前節述べた狭義の職業指導即ち適職指導は含まない——を含めていふ場合と、専門の職業技術を學ぶ場合を云ふ時とである。大工の弟子が大工の技術を學び、菓子屋の徒弟が菓子製造法を學び、師範學校の最上級生が附屬小學校で教育實習をするなどが後者即ち狭義の職業教育である。したがつて廣義の職業教育とは前節述べた廣義の職業指導と同じ概念となるのである。かくては非常に語彙がまぎらはしくなるから本書に於ては小學校では一切職業教育といふ語はつかはない事にする。即ち小學校は職業指導をなし適職指導をなすけれども職業教育はしない事になるのである。

### 第三節 適職指導の意義

前々節に於て述べた様にこの語をボケイシヨナル・ガイダンスを譯したものと使ふ。即ち或る時まで職業指導といふ譯語で使はれたものである。元來ボケイシヨン(Vocation)をガイド(Guide)するといふ意味から考へると天職の指導とでもいふべきで唯職業指導ではあまりびつたりしない。生活のための職業紹介(Occupational Guidance)とは區別しなければならぬ。ボケイシヨナル・ガイダンスは一定の個人を適職へつかしめんが爲めに忠言・智識及び訓練を與へかくて將來其の個人が成効して自ら生活の安定を得又有爲の人物となりて社會に貢献することの出来るやうに指導することを云ふので即ち適材配置を目的とし、個人の幸福及び社會の福利増進を二次目的とする社會的教育的の活動を云ふのである。適職指導については本書はかなりの頁を割いて其の具體的研究を載せる事にした。

### 第四節 進學指導の意義

進學指導は其の文字が示す如く、極めて明瞭で些の曖昧もない。即ち尋常小學校を卒業し、或は高等小學校を卒業して、更に上級學校を志望する者の爲めに其の進むべき學校の指導を與へることである。ところで進學指導も亦一種の職業指導であり、一種の適職指導である。中學校高等女學校及び補習學校へ進學する者にとりては直ちにそれが適職指導の形とはならないけれども、既に其の進學を決定する時職業及び一生の方針について若干の考慮を加へなければならぬ筈であるし、他の實業學校への進學を希望するものにとりては勿論、其の時が適職指導の第一段であるからである。かく考へる時進學指導は其の性質全く職業指導と同じく學校として充分に考慮し指導を與へなければならぬ事はいふまでもない。

### 第五節 職業紹介の意義

人に職業を、職業に人を紹介して結びつけようとする社會的の制度で前述の適職指導などとは大分概念を異にする。これには適職とか天職とかいふ意味はあまり濃厚でなく、互に結び付けることが目的で全く機械的である。勿論職業紹介が適職適性の合致である事は希ふところではあるがそれが不可缺の要件とはいはれない。雇傭主と被傭者との中間にありて紹介するのはたらきである。現在の制度では公設の職業紹介機關は職業紹介所でこれは内務系統行政系統の社會的の一機關であり、職業紹介法は矢張り教育法規ではなく、法律として出て居て其の支配をうけて居るものである。學校で如何にうまく適職の指導をしても正しき職業へつくためにはどこかの紹介の手を経なければならぬ。本書亦一章とりて其の手續等を示した所以である。

### 第六節 適性考査の意義

職業がこれに適する人を求むるのを適性考査といふ。ドイツ語のアイグマンガス・ブルーフング(Eignungsprüfung)を譯したものである。アイグマンガは適任といふ文字でブルーフングは試験といふ意味である。即ち人間があつて適する職業を求むるのが適職指導で、職業があつて適する人間を

求むるのが適性考査である。近時の産業合理化をなし能率研究をして經營して居る工場などで職工を募集して採用する場合には何れも適性を考査して居るのである。即ち工場としては其の工場に最も都合のよい人、最も能率の高い人を探る筈である。其の時行ふ試験が即ち適性考査なのである。本書としては参考の意味に於て一章割きて概説する事にした。

以上六節にわたりて、よく誤解さるゝであらう語彙の意義を確定した。何れはそれ〴〵の章に於て具體的にくわしく説明するのであるから今茲では極めて概説したまでである。



### 第三章 職業指導の主旨

#### 第一節 個人と職業

職業指導の主旨に就て考察するに當り、先づ以て職業の本旨について充分の理會がなくてはならぬ。自分は職業について次の定義をする。

『職業とは人類社會の幸福を増進するために各人が分擔する社會の業務で兼て各人及び其の家族の生活の資料を得るものである』

即ち職業は個人性と社會性とを内在して居る。

人が個人として又家族の一員として生活してゆくには衣食住を始めとして修養・娛樂・交際・醫藥等各種の方面に随分色々の意味に於て費用を要する。修養や娛樂や交際等の費用は極度に節して殆んど入用ないとしても衣食住は誰も缺く事は出来ないもので、生活のためでなく生存のために必

要の要素である。而してこれが資料を得る事が即ち職業である。だから誰も生存する限りに於て、生活する限りに於て職業に就かぬ事は出来ない。而して人である限り衣食住だけでやつと一日一日の生命をつなぎ以て満足すべきものではなく、又現在の文化の中に生活する者として修養や娛樂や交際等の文化的恩恵を享け得ないわけにはゆかぬ。かゝる文化の恩寵に浴し得ないといふ事程悲惨不幸はない。これが爲めには誰もよりよき職業に就き収入の増大を計らねばならぬ事は明であり、いふまでもなく萬人の望む至情である。かく考へて來た時同じ職業に就くとしては出來得るだけ其の職業が安定のものであり、生活資料を豊かにとり入れるものでなければならぬ。其の爲めには其の個人の性質や能力の最大限の發揮出来る仕事を見出す必要がある。これが人が適職を求めなければならぬ第一の要因である。

次に人は何の爲めに此の世に生を享けたかと考へて見なければならぬ。人間として與へられた能力を發揮し、人格の實現をなし、個性發揮をなすべきものであらう。而して人は一生職業と道連れである。職業は人が人として社會に働く一の形式である。隨て人格の實現といひ、個性の發揮といふも亦職業といふ形式を透してなすと考へてもよいであらう。伊藤公は政治家として邦家のために其の全我全力を盡された事が公の人格實現であり、個性發揮であつた。東郷元帥は海軍の軍人とし

て國家のために其の全力をつくされた事が元帥の個性發揮であつた。澁澤翁は實業家としての其の面目が其の人格實現であり、個性發揮なのである。野口英世博士の葬儀の時ロックフェラー氏は弔辭を述べて曰く『我が野口君は一生唯問題の解決のために捧げた』と、學者は問題解決眞理探究が其の人格實現であり、個性發揮なのである。之は古來の偉人に求めるまでもなく現在世の中に働きつゝある人にして皆然りて、其のなすべき本務と職業とは密接不離の關係にあるものである。かるが故に人已れの職業を選定するに當つては唯人生の方便としてのみ考へてはならぬ。或る意味に於て人生の目的として考へねばならぬ。これが人は適職を求めなければならぬ第二の要因である。

## 第二節 社會と職業

人間の文化の進まない原人の時代に於ては其の生活は極めて單純で社會といつても殆んど進んだ動物の集團生活の如き觀があり、唯日々を生きてゆくといふだけで無理想の状態であつたのであるが、漸く進化し人智が進み社會の集團が大きくなるにつれて、漸く職業が分化して來て遂に今日の文化状態を現出した。而して文化が進めば進む程あらゆる事が分化して職業の如きも非常に複雑な

分業の形となつて來た。太古原始の時代に於ては衣も食も住も自分自身で自然から採取して自分自身で簡單なる加工をして自分自身で使ふのみで、他人との交渉は殆んどなく、他人との交渉といへば唯物資住所配偶者の奪取と争鬭位の單純なものであつたのであるが、文化が進むにつれて、衣も食も住も其の採取も加工も運搬も分配も一切複雑な分業となつて來た。例を一枚の棉服にとつて見ると原棉栽培は印度か米國かで行はれ、それがどこかの汽船に依つて運搬され、我が國のどこかの港で陸上され、ある紡績會社で糸になり、染色會社で色がつけられ、更に織布會社で反物となり、更に之れが問屋や商人の手を経て購入される。更に仕立て、着るまでには仕立屋といふ専門の仕事の手を借りる事になる。これまでも既に幾十幾百の人手にかゝるのであるが、更に紡績や染色の器械、染色の原料等々がどんな人手を要したかまで計算に入れた時には幾千幾萬の人と職業との手を通るものである。かくて文明の現在に於ては多數多端に分れた職業が錯綜して行はれて居る。而して總べての人は其の社會の業務のどこかに己れの位置をおき互に連繋をとり集團の爲めに盡して居るのである。これが各人の職業なのである。隨て人は誰も非常に多數の人から非常に複雑な交渉に於て生きてゆくの矢張り各自其の一員として正當の位置に於て盡さなければならぬ。各人が何か一つの適當の位置を占めて全力を擧げて働くとき社會は進歩し幸福は増すものである。寓話で

訓へられる様に目も耳も鼻も口も手も足もそれ／＼の正しき働きをすればこそ自分も日々楽しく活動が出来るので、胃の腑を懲らしめやうとして働かなくなつた日には自殺する外ないのである。世は全く相み互のものである。かく考へかゝる正しき職業観を持つた時労働は神聖なりとか職に高下なしとかの理念が正しく理解され世の中に不平は無くなるのである。

更にこれを國家といふ一の特殊の集團から考へて見る。矢張り一國の繁榮と隆盛とはかゝつて國民の總べてが國家のために己れの本分を完全に盡すことにある。而して各人がつくす本分とは即ち各人がなすべき職業を完全に遂行する事である。即ち國家から云つても職業と各個人との結び付きは非常に重大な意義を持つものである。國力の充實を考へる時物的資源の重要性は誰も考へる事であるが人的資源に就ての考へ方が不徹底の憾がある。唯人口の多いだけが誇ではない。總べての人が完全に其の能力を國家のため盡すとき人的資源が充實した事になるので初めて誇り得るのである是非かくあらねばならぬ。

### 第三節 人の數と職業の數

世には人間の數は年々増すけれども職業の數は之に伴はない。そこに生存競争が劇甚となる理由があり、職業指導をなさねばならぬ原因が存在するが如き論を立てる者もあるが、これは考へあやまりである。人間の數と職業の數とは常に一致するものである。人の數は年々増すが同時に職業も之れを容れるだけ増しつゝあるものである。人が十萬増せば職業も十萬増し、人が二十萬増せば職業も亦二十萬増すものである。昨今經濟界の大恐慌により日本にも三十幾萬の失業者がありと報告されて居る。然しこれは人間の數が増し過ぎて職業が不足したのではなくて、不健全な状態から片よりに職を求めた結果一方に失業者を生じたので、嚴密に云へばかゝる時はどこかに手不足、人不足の社會が存在する筈なのである。若し人口増加によりて職業不足の結果を生ずるものとすれば我國は年々九十萬位人口が増すのだから年々九十萬の失業者を増して來なければならぬ事になる。これは到底考へられない事である。若し又人の數と職業の數とが一致せずそれが失業の原因となりそれが職業指導の必要となつてあらはれるものとすれば、職業指導とは弱肉強食の悲惨なる、しかも利己的なる競争を強ふる悲しむべき現象となる。これは決して教育的に正しき理念を生み出し得ない。人の數と職業の數とは一致して居る。而して人には唯一人も棄才はない。これは不用の人だこれは捨てらるべき人だといふものはない。神様はかゝる薄情なことはせられない。人間が世の中

へ出た限り何か成すべき任務がある筈である。先づすべての人はこの自覺を持たねばならない。賢き人には賢き人に合ふ職業があり、愚かな人には愚かな人に合ふ職業がある。身體の丈夫な人には丈夫な人に合ふ職業があり、身體の弱い人には弱い人に合ふ職業がある。才ある人には才のある職業があり、才なき人には才なくて出来る職業がある。手先の器用の人にも、耳のよい人にも、目のよい人にも、盲人にも、啞者にも、聾者にも或は左利にも跛者にも皆それ／＼に合ふ職業がある。而してそれを適職といふのである。この適職を正しく見出して就職するのが職業指導の狙ふところである。かく考へてこそ我等の職業指導が正しき意味と位置とを保ち得るのである。

#### 第四節 適性と不適性

前節に於て適職の意味を概説した。この事は職業指導に於ては極めて大切な概念であるから、今少し考へて置く必要がある。

人口は年々増加する。しかしそれにつれて職業も分化し増加する。而してそれは丁度並行して居て人の數と職業の數とは常に一致する。然るに人は其の面貌の異なる如く智能も氣質も性格も身體も

學力も皆異なるものである。そのみでなく物事の考へ方や趣味・嗜好・希望・理想・好惡等何れの方面も皆異なるものである。更に家庭の各種の事情・四隣・友人等所謂環境を異にし、其の差異は千人千様、萬人萬様である。勿論其の異なる程度も千差萬別到底これをどんな形に於ても簡單にはあらはす事は出来ないものである。ところで一方職業の方を考へて見るとこれ亦それに要する能力・體力・感覺力・智恵・才能・才幹・氣質・性格・學力・學歷等を異にする。大した體力を要しないものがあるかと思へば非常に大なる體力がなくては到底つとまらないものもある。極端な二三の例を擧ぐれば力士となるには非常に優秀な體力と體格との持主でなければならず、國家の政治に關與する政治家や國交の衝に當る外交官の如きは優秀明晰な頭腦と識見とを持たねばならず、學術の蘊奥を極め、物の原理の探究をなす學者や大學の教授や研究所の技師などはよほど優れた智能と旺盛な研究心とを持たねばならず、船の貨物の陸上げに働く濱仲仕の如きは大抵百キロの重荷を肩に載せて歩むだけの力量がなければならぬ。かく考へ合すと何れの職業もそれ／＼のなすべき任務が異なるためにそれに従ふ人間に異つた性質を要求する。即ち人に個性の差がある如く仕事にも業態に差異があり、要求する性能に差異がある。こゝで適性の概念がはつきりする。隨て其の反對に不適性といふ事も考へられる。體力のいる仕事に對して體力なき人は不適性の人であり、臂力のいる仕事に臂力

弱き人は不適性の人であり、優秀なる頭脳を要する仕事に低能白痴といはれる人は不適性である。又之と反對に大した學力や智能を要しない仕事に優れた頭腦の持主も不適性である。唯示された範圍内で器械的に働けばよい筋肉的勞務につく仕事へ優秀な識見と學才とのある人は不適性である。かゝる不適性の者が就職すると不平の徒となり屢騷動の原因とさへなるものである。

### 第五節 よき日本人

よき日本人とは一つの適職を得た時初めて云はれる言葉である。職を持たぬ人、職を盡さぬ人はよき日本人ではない。如何に體格がよく、健康で、學問があり、才能が優れ、行爲が立派でも尙立派な人よき日本人だとは云はれない。よき日本人としては國家の職業の一部面を擔當して全體のために奉仕して初めて云はれることである。一般陶冶とか、基礎的陶冶とかいふ概念には之に對立する特殊陶冶或は専門的陶冶といふ意味の豫想があつて、人の特殊の職業についての教育はこの後者に考へたため、普通教育は一切そんな事を考へに入れなかつた。しかし一體今日までは一般陶冶だ基礎陶冶だ、今日からは職業陶冶だと木に竹をつぐ様な事が出来ようか、それが正しき能率高き事か

を考へねばならぬ。少し深く考ふれば一般陶冶も基礎陶冶も結局はよりよき人間生活への訓練でなければならぬ。而して前述した様に人間生活は職業を透してなすものであるから基礎陶冶も一般陶冶も皆よりよき職業人への教育である筈である。特に國民總動員を要する現時の世相より考へた時日本人誰も一人残らず己れのベストを盡して職業に勵まねばならぬ事は明である。野球チームに於て各持場と職能とを異にするナインが各最善のベストを盡した時其のチームは勝者となり得るではないか。よき日本人の概念は必ず適職である職業を持つといふ一條件を内包させなければならない。小學校の教育が狙ふよき日本人といふ概念もかく考へて初めて完成するものである。(女子と職業につきて如何に考ふべきかは後章に論ずる)。

以上五節にわたりて職業指導の必要を述べた。次にこれが小學校にとり入れらるべき理由及び小學校の所謂一般的陶冶基礎的陶冶と如何に關係し如何に區別すべきかに就て次々章に於てざつと述べて見よう。

## 第四章 職業指導研究の沿革

職業指導研究の沿革を考察するに當り、教育史を繙き昔のベーコン・ロツク・コメニウスなどの實學思想や其の思想發展の歴史に遡つて學校教育に於ける勤勞的職業的の陶冶などについて論ずる事はあまりに迂遠な事で、今我等の直接必要としないところである。元來今の職業教育思想は十六世紀頃よりのそうした思想の影響だとは考へられない。或る別種の誘發動機によるものと考へるのが至當であらう。十九世紀の自然科学の極度の進歩に伴ひ、人間はあらゆる自然を百パーセントに利用しやうとした。而してこれについて人間力利用、人間能率の増進に對してもあらゆる研究を始めた。こゝに人間と職業との關係が當然問題となつてあらわれたものである。

前にも述べた様にボケイシヨナル・ガイダンスなる文字があらわれたのは一九〇八年の事で今からやつと二十餘年にしかならない。勿論其の始めに於ては極狹義の意味で適職發見指導と云ふ事であつた。これが我國へは職業指導なる語で譯されて來た。然し初めの頃は極めて特殊の一部分の人を除きてはかゝる事に注意する人は無かつた。

自分は今から十餘年前下關市の某小學校に居た。そして尋常科第五六學年の男兒童を屢受持つて居た。當時世界戰爭後の好景氣につれて誰も彼れも猫も杓子も中等學校進學を希望した。入學志願者は募集人員の數倍十數倍といふ有様で入學試験の競争は段々劇甚となり、遂に文字通り殺人的入學競争を現出した。自分の受持の約半數はいつも中學校及び商業學校を志望した。而して教師としての自分はそれ等を入學せしむる爲めにはあらゆる手段を講じた。學校の正課を濃厚に入學準備的な色付けをしたは勿論、日々放課後の課外指導も日が暮れた。日曜も休日も學校に出た。甚しきは夜は家庭へまで出入して入學準備教育をやつた。全くそれは非常識非教育のものであつた。しかし其の當時の社會事情は非常識と意識しつゝもやるべく餘義なくせしめて居た。其の頃自分の頭の中には非常な不安と煩悶とがあつた。余は毎日學級兒童の半數の受験生のために自己の精力の九分方を捧げて居る。さて残りの半數の不受験兒童に對してこれでよい事か。私の教育良心と人道上の公正意識とは非常の苦悶をつゞけた。幾日も幾週も幾月も悩みつゞけた。しかしうまい解決法は見付からなかつた。其の頃國民新聞のどこかにボケイシヨナル・ガイダンスの紹介があつた、自分はハタと手を拍つた。これだ。これが残り半數の不受験兒童へ對して私のなすべき道なのだ。と教へられた。それからポツ／＼其の方への研究を心掛けた。しかし其の當時は何の研究の手が／＼も

なく、まして實際問題とまではならなかつた。それでも其の頃何かの雑誌へそれについての所見を書いたりした。今からふりかへつて見ればかゝる事に注意したのは自分は早い方であつたと思ふ。大正十二年始めに明治圖書株式會社から出版した自分の處女作實驗精神検査法の中にも精神検査の目的の中に職業指導と精神検査といふ小見出しで左の節を書いた。

『人が自分の個性に最も適した職業に就くと否とは其の人の一生の幸不幸に大關係あるは勿論、延いては社會全般の發達の上にも重大な關係を持つものである。而して最も適する職業とは其の人の趣味に合する事の必要はいふまでもないが、其の人の精神上・技術上及び身體上の長所に合する事は根本である。そこで精神上・技術上・身體上の特質を調査する事が職業指導の最も大切な要件となる。自己の個性に合はない職業で一生苦しんだ者、中途から職業を換へて成功した者幾らでも實例がある。醫學校を途中で止して名高い文士になつた者、商業學校を途中で止して名高い畫家となつた者、官吏を早く止して實業家として成功した者、何事も初めに己れの性質に合ふか否か見定める事を怠つてはならない。この意味に於てこの頃の中學校卒業生の中には高商・高工・醫專・商船等三つも四つもの學校へ志願し、合格した方へ行くといふやり方は極めて無定見な事だと思はれる。』

産業能率上から米國あたりでは精神検査がポケイシヨナル、ガイダンス（職業指導）に重要な要件となつてゐると云ふ。我が國でも東京兒童相談所・大阪少年職業相談所などでは醫學上・心理上の検査によつて綿密な個性調査をなし職業指導をして居るのである。然し職業は非常に多岐に分れて居て、千を以て數ふる程あるし、又一方検査は人の趣味や意志力や社會的適應性や人の首領となる力・人格といふ様な感官に觸れ難い部分は測定が困難であるから過信してはならない事は注意すべき事である。

一方多數の人を使ふ官廳・工場・商會等では使ふ人の能力と仕事とびつたり合する爲めに智能検査が利用される向きが著しく増して來た。この事についてターマンは次の如く云つて居る。『産業界に於て傭人の能力と仕事とが一致しないために受くる損害は莫大である。現在の様に新しく傭ふた人を能力不足と見るや漸次易い仕事へまわす様なやり方は大變な不經濟で且つつまらぬ事である。もつと經濟的で満足な方法は夫々の地位に適する者を試験し不適者を除くために心理學者を傭ふ事である。大きな百貨店の様な五百人千人と人を使ふところではかうした方法で一人の堪能な心理學者の給料の數倍を節約し得る』と。近時産業界に産業心理や人間工學の問題が盛んに研究さるゝ様になつて來た。之と共に検査も益々重要な地位を占むる様になる事であらう。』

少し長くくどくしく引用したが今から十年前にこの思想があつたのはたしかに時代の尖端にあつた様に思ふ。これより少し前即ち大正十年に法律第五十五號で出た職業紹介法及び之に伴ふ勅令職業紹介法施行令等は或る意味に於て自分を勵ました。この頃幾度も地方の雑誌へ小學校の職業指導の必要や概念を登載した。

然るに文部省もこゝに見る所あり、一は時代思潮の影響により一は小學校教育の社會化實用化のため、一は邦家の國勢、時代の趨勢に刺戟されて昭和二年十一月二十五日個性尊重及び職業指導に關する訓令を出した。かくて愈この問題が教育界の表面に力強き輿論としてあらわれたものである。参考のため右の訓令及び之に伴ふ文部次官の通牒を載せよう。

文部省訓令第二十號

府 縣 廳

兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫緊ノ要務ニ屬ス隨テ學校ニ在リテハ平素ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲモ顧慮シテ實際ニ適

切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇ニ關シ懇切周到ニ指導スルコトヲ要ス是ノ如クシテ國民精神ヲ啓發スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤勞ヲ重ムズル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於テハ左ニ掲グル事項ニ就キ特ニ深ク意ヲ用フベシ

一、兒童生徒ノ性行、智能、趣味、特長、學習情況、身體ノ情況、家庭其ノ他ノ環境等ヲ精密ニ

調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト

一、個性ニ基キテ其ノ長所ヲ進メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇等ニ關シテハ適當ナル指導ヲナスコト

一、學校ハ前掲ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト

地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其ノ目的ノ達成ニ力メムコトヲ望ム

昭和二年十一月廿五日

文 部 大 臣

次は次官發の通牒を書くことにする。

昭和二年十一月廿五日



文 部 次 官

各 地 方 長 官 宛

児童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

本日文部省訓令第二十號ヲ以テ標記ノ件訓令相成タル處右實施ニ就キテハ特ニ左記事項御留意相成度依命此段通牒ス

記

一、児童生徒ノ個性、環境等觀察調査ノ方法及記入ノ様式ニ關シテハ學校當事者ヲシテ特ニ研究工夫セシムルコト

一、學校當事者ヲシテ職業紹介所等トノ連絡ヲ密接ナラシムルコト

一、師範學校實業補習學校教員養成所等ニ於テ生徒教養上訓令ノ旨趣ニ就キ特ニ留意セシムルコト

ト

一、學校職員等ニ對シ適宜個性調査ニ關スル講習ヲ爲スコト

一、訓令ノ旨趣ハ之ヲ父兄保護者等ニ徹底セシムルコト

越えて自分は昭和三年東洋圖書株式合資會社から實際的個性調査法を出版した。其の中にも個性調査の意義と目的といふ節に於て個性調査と職業指導との關係について少し書いた。『個性調査は職業選定上最も必要である。個性に合はぬ職業についた程人生に悲惨はない。人生に三つの道連れがある。其の一は配偶者で、其の二は職業で、其の三は人生觀である。この三つは何れも人生を明るくしたり暗くしたりするもので慎重の態度で選定しなければならぬ。學校教師は職業に就て若干の指導を與へなければならぬ。其の場合個相をぬきにして考へることは出來ない。身體が弱い者で軍人を希望したり、筋肉労働を必要とする職を希望したりしても駄目だし、色盲者が交通業を望んだり、難聴の者が音楽家を望んだりしても駄目である。あらゆる仕事にはそれに合ふた性質がある、あらゆる性質にはそれに合ふた職業がある。職業指導上個性調査はなくてはならぬものである。云々』と。かくて自分の職業指導に關する關心が漸く深くなり、其の初等教育との關係も漸く明瞭な一識見となつた様に思ふ。この頃我が國にも職業指導に關する書籍が數種十數種出版された。文部省内に職業指導協會が出來たり、雜誌「職業指導」等が創刊されたりしたのもこの頃であつた。又小學校として職業指導研究及び施設に於て優れたものが全國あちこちにあらはれた。自分もまねかれて縣下數箇所の講習會に於て小學校に於ける職業指導の實際に付て講義をした。かくて現在に至る。

しかしつぶさに考へると小學校に於ける職業指導はどの程度まで如何なる方法で如何なる制度の基に實施すべきかについての確固たる研究や定論はない。今は其の研究の時機に到達して居ると見るべきであらう。

## 第五章 小學校に於る職業指導

### 第一節 一般陶冶と職業指導

小學校は小學校令第一條の示す如く兒童身體の發達に留意して道徳教育及び國民教育の基礎並に其の生活に必須なる普通の知識技能を授くるのが本旨である。即ち國民に一般的の基礎陶冶をなすのが其の任務である。そこへ職業指導といふ特殊の事を導入するとして其の調和如何、其の程度如何とはよく問題にされる事である。これについては色々の考へ方があり得ると思ふ。先づ第一に極廣義に解釋した時には一般陶冶も亦職業指導であり、職業指導も亦一般陶冶であるとも云へる。一般陶冶といふも何も人生々活を離れた遊戯であつてはならない。結局はよりよき人生生活の方法を教ゆるものであり、而してよりよき人生々活とは職業ぬきのものではないからである。職業指導といつたとて小學校に於けるそれは決して或る特殊の一職業を豫想するものではない。何れの職業へ

就くとしても當然うける指導なのであるから小學校の職業指導は職業的一般的普遍的基礎的のものであり即ち一般陶冶である。だからこの論からすれば一般陶冶即職業的陶冶であり、職業指導即一般的陶冶である。算術が出来るといふ事は人間としての心力の形式的陶冶にもなり、實地の生活に必要な智識技能でもあるが、同時に之れが何職へついたとしても必要な職業的陶冶でもあるのである。文がよく作れるといふ事は人として必要であると同時に職業として必要な事なのである。昭和二年十一月に児童生徒の個性尊重及職業指導に關する訓令が出た時に文部省普通學務局から訓令及び通牒の要旨といふ言はず説明にあたるものが發表された。其の中に『申すまでもなく職業指導は児童生徒に對し其の學校在學中、個性環境等に基いて、職業に必要な素養を與へ、愈學校卒業の際に於ては將來執るべき職業の選擇又は進むべき上級學校の選擇等につき各人の資質に應じて適當なる指導を加へ尙其の就職後の輔導等を意味するのであるから、其の要旨は全く教育の本旨に包含せらるべきものであつて假令職業の選擇に對する指導に伴ふて職業紹介所の事務と密接なる聯絡を要する場合ありとするも、其の根本要義は決して勞務の需給關係に胚胎するものでないものであるから、教育の本旨を達成するに於ては所謂職業指導の目的も自ら貫徹せらるゝのである』とある。職業指導といつても教育の本旨目的を貫徹するものであるとせられて居る。

元來小學校令第一條は一般的陶冶基礎的陶冶を示すものだといひきるわけにはゆかぬ。『生活に必須なる知識技能』といふ解釋如何によりては職業的陶冶を含むと考へてもよい。生活とは何か、人としてのある理想を持ち、多人數が協力共同して幸福に暮す事をあらわすとすれば矢張り職業といふか、職分といふか、人らしき各自のなすべき任務が其の中に含まれると見なければならぬ。かく考へた時生活に必須なる知識技能とは職業的知識技能だといつてもよい。即ち小學校に職業指導が當然課されねばならぬ事は小學校令第一條に明記してあるといつてもよいのではなからうか。

以上は職業指導といふ概念を最廣義に考へた解釋であるが、本書で説く様に職業指導の主要な施設が職業指導講座や、職業參觀や、適職選定の指導や、職業紹介や、就職法の指導鞭撻やの如き事であり、従來行ひ來つた教育を一般陶冶基礎陶冶の教育といふならば、一般陶冶教育と職業指導とは如何に調和すべきか、如何に連絡すべきかといふ問題は當然起り得る。しかしこれは本書全體が解決を與ふべき答案として書かれたと見てよい。本書全體がその答である。

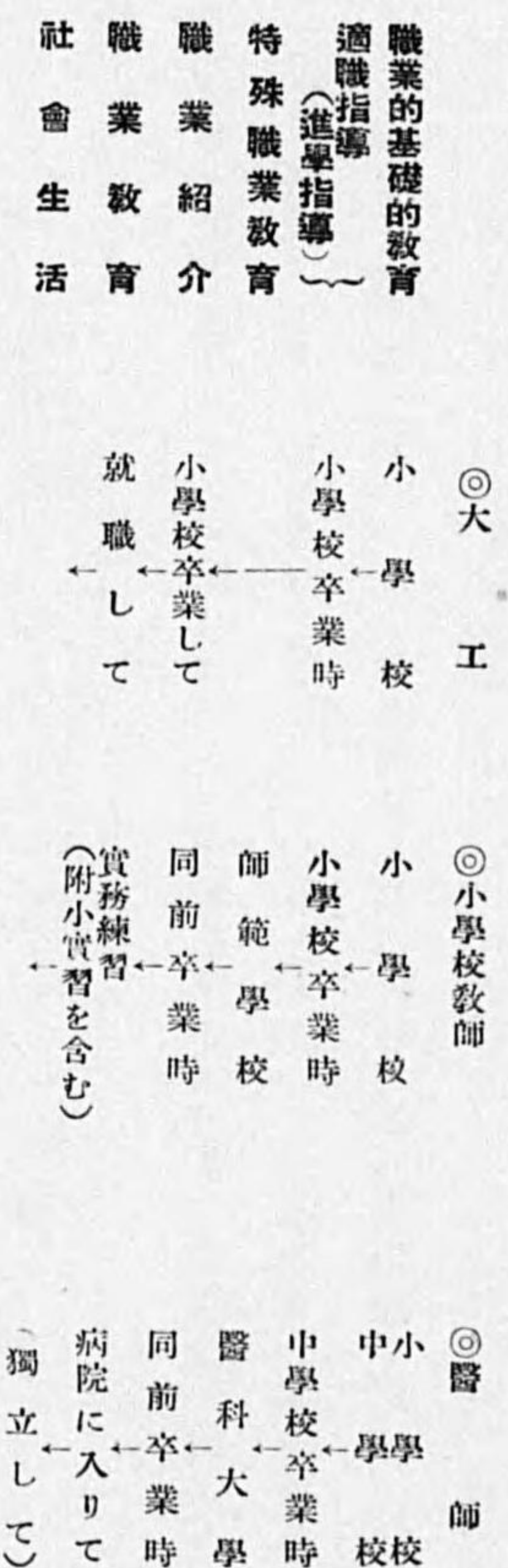
## 第二節 女子學級と職業指導

我が國は歐米の個人制度中心と異り、家族制度中心であるから職業も個人につくのではなく、家につくのが本體だと考へられる。女子は職業の主人とはならず、一家の職業の完全遂行の内助者となるべきである。學校卒業後も直ちに職業實線に立つ者は男子の半数にも満たない程度だと思はれる。隨て職業指導にしても全然男子同様であるべき必要はない。大體に於て總べてに於て女子は男子の半分の時間を指導に割くことにして居る。この事につきましては第九章第八節を参照せられたい。

### 第三節 小學校に於ける職業指導

人が完全な職業人となるまでにどんな教育を通るかに就て考へて見るに先づ小學校に於て職業的一般的基礎的の教育をうけ、高等科（或は尋常科）卒業の際適職指導（或は進學指導）をされる。直ちに職業實線につく人は職業紹介所の手により就職し、進學するものは更に上級の學校へ入りて特殊職業教育をうける。小學校卒業後直ちに就職した者は之れから職業教育をうけて一人前に育て上げられるわけである。中等の實業學校へ進學した者は其の卒業の場合職業紹介が行はれ、それから職業教育をうけて一人前となるのである。例へば小學校教師になる者について考へて見るに小學

校で職業的一般教育をうけ、卒業の際進學指導（適職指導）をされ、師範學校にて特殊職業教育をうけ卒業の際職業紹介され、愈教師となりて社會に立つ。この場合職業教育は附屬小學校に於ける教育實習がそれに當る。醫者となる者は小學校及中學校にて一般的職業的教育をうけ、中學卒業の際適職指導をされ、醫科大學に於て特殊職業教育をうけ、紹介されて病院に入り、そこで本當の實務につき職業教育をされるものである。これを見易く大工・小學校教師・醫師を例にとりて表の形にしてみると次の様になる。



だから小學校の任務は職業教育ではない。職業に對する理解と識見を養ひ、選職の能をつけ、職業選定の助言を與へ、紹介をなすまでである。其のなすべき任務方法の具體的の點に到りては更に

章をあらためて書く事にする。

#### 第四節 其の他の學校と職業指導

職業指導 小學校だけでなす事ではない。補習學校に於ても、中學校に於ても、高等女學校に於ても、他の實業學校に於ても皆行はねばならぬ事である。文部省の訓令個性尊重及職業指導に關するものも『兒童生徒の』とあつて、中等學校も共に含めてある事勿論である。然るに一般に教育教授に關する研究 小學校は比較的活潑であるが、中等學校はどうも不活潑の感がある。職業指導の問題の如きも中等學校は知らぬ顔であるかに見える。これは極めて遺憾な事である。中等學校は教師か教科本位になつて居る爲めに人間全體を考へる事が足りない。學問さへさせればよいといつた感じが強い。訓育的の方面、人間を作る方面に隙があると思ふ。初青年期は人間として一生の方針の定まるべき最も大切な時である。こゝ等に中等教育上に色々の問題が伏在して居るかに考へられる。職業指導などの研究も今少し中等學校に於て進まなければならぬ。最近中學校令が改正されて作業科や公民科が加はり、教育に勤勞的作業的のものを加味する事になつたのであるが當然かく

あらねばならない。高い教育を受ける程頭の人間となり口の人間となり、實生活から離れやうとするのは遺憾な事である。著者は中等乃至高等の教育に於ても職業指導が攻究され、實施さるべきものなることを主張するものである。

中等學校に於ける職業指導は其の施設に於て直ちに小學校と等しくはないけれども其の着眼に於てはさしたる違ひがあるべきでもない。本書はその意味に於て矢張り參考となり得ると考へて居る。

第二篇 實際之部

### 第六章 小學校に於ける職業指導の範圍と方法

前編に於て職業指導の意義・職業指導の趣旨及び小學校に於ける職業指導の必要について概説した。本編に於ては其の實際の實施方法について具體的に述べやうとするものである。而して既に本邦にも職業指導に關する著書も二十幾種も發表されて居る今日、更に一書を加ふる所以のものは全くこの實際編に其の生命がある。第一編は全く本書編成の體裁上より書いたとも考へられる。

然るに前にも述べた様に職業指導の研究は日淺く、本邦に於ては實施の記録等少く、如何なる材料で如何なる方法で、いつ誰がやるべきかについての定論ともいふべきものがなく、今尙ほ實施研究中に屬するといふのが至當かと思ふ。職業指導實施の適否についてはもう既に研究を通り越して居るのであるが、實施の方法に就ては確固たる定説がないのである。自分はこれについては十年前來意らず研究して居たが愈實施したは最近の二ケ年に過ぎない。こゝでは自己の識見に於て左の方針のもとに小學校に於てなすべき職業指導の體系を立てたものを基にして發表するものである。

一 小學校本來の使命と衝突矛盾することがあつてはならぬ。國民基礎教育の徹底に抵觸する事な

く、しかも從來考へ及ばなかつた職業部面に深入りして居るものである事。

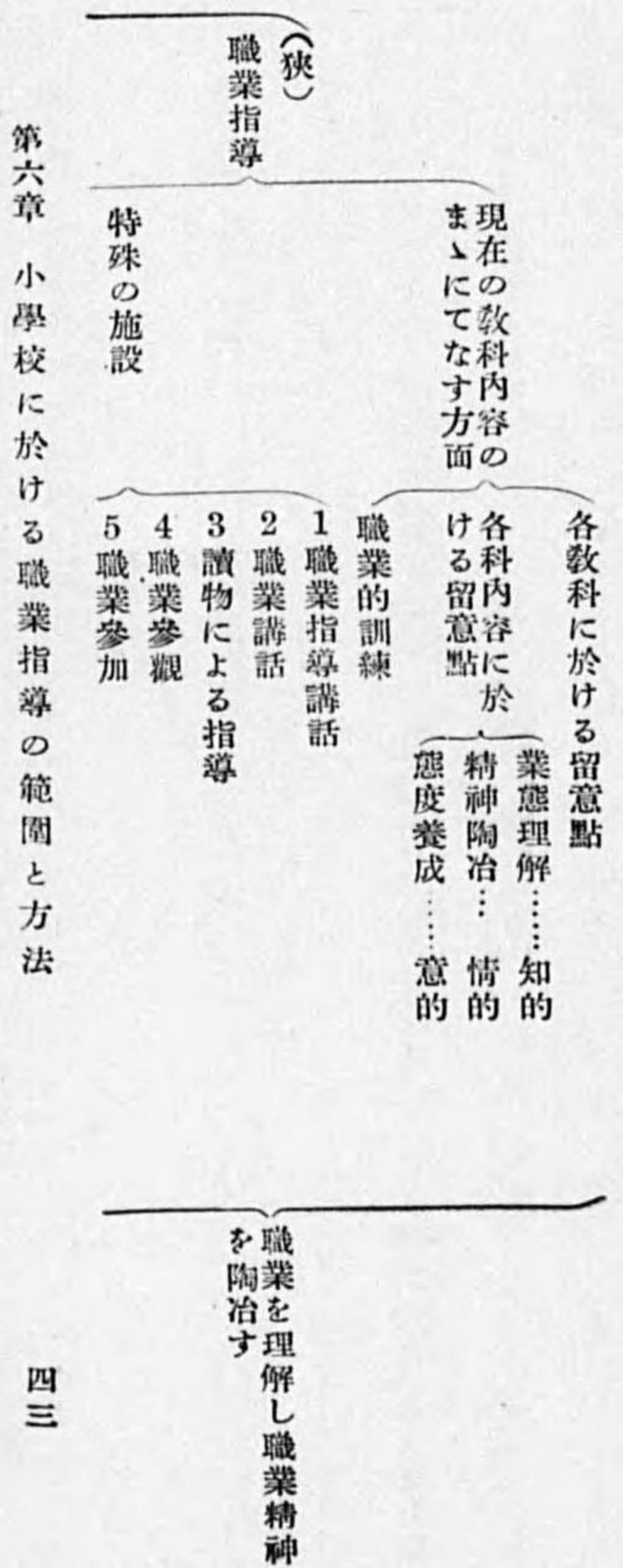
二 實施が非常に多くの設備經費等を要して、到底永續性のないものであつてはならぬ。學校教育の事は一時的の施設や試みであつては効果が少いからである。

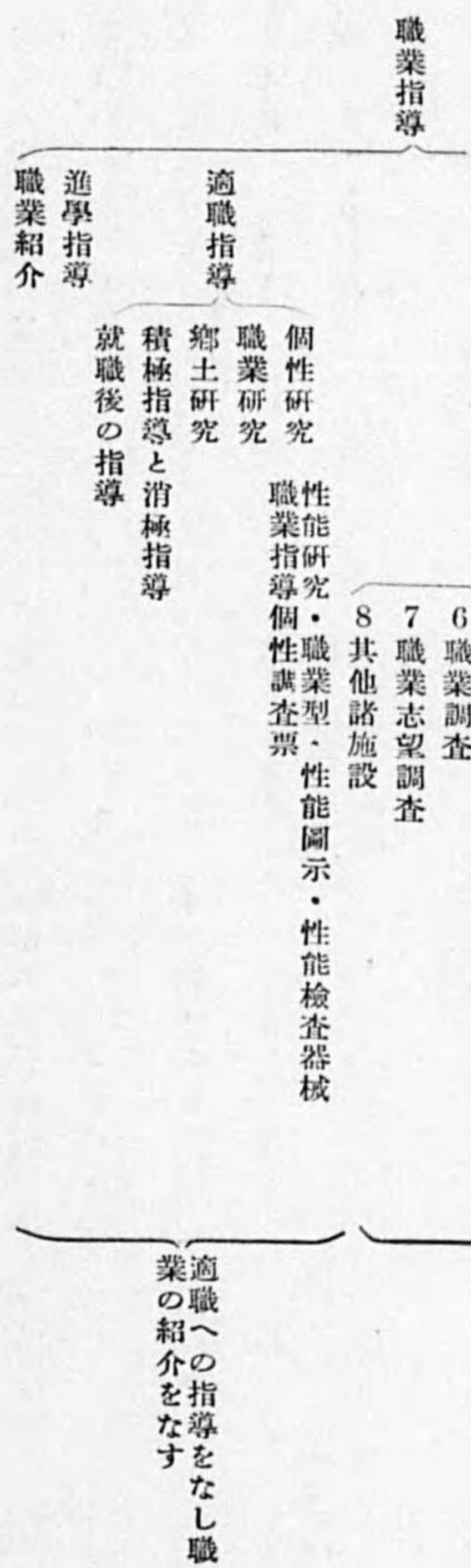
三 現在の設備現在の教師で自由に行はねければならぬ。あまりに理想であつてはならない。

四 どこかで研究済みの方法でなければならぬ。机上の空論では仕方がない。

五 教育的であつて必ず其の効果が豫想されるものでなければならぬ。

以上諸條項を考慮して左表の様な實施體系を立てた。次章以下の説明は要するにこの表の解説である。小學校に於てなす職業指導は大體これでききて居る。





要するに小學校に於ける職業指導は（一）職業を理解し職業精神を陶冶する事（二）適職への指導をなし職業の紹介をなすの二項につきる。而してこの二項中では其の第一のものが即ち職業理解と職業精神の陶冶とが第一義である。第二のものは既に社會へ直面しておこる事で卒業際にならねば生ずる問題ではないし、且あまり容易の事ではなく、全兒童に及ぼさねばならぬ性質のものでもない。しかし第一のものは全兒童へ全學校在學期中常に留意してあつかわねばならぬ問題である。

## 第七章 職業指導 其の一

——從來の教科内容のまゝにてなす方面——

### 第一節 職業指導と各科の留意點

基礎教育一般陶冶としての小學校教育と職業指導としての特殊教育との關聯は前々章に述べた通りであつて、其の間に何の故障も不調和もなく、一般陶冶の徹底は即ち職業陶冶であり、職業陶冶の徹底は即ち一般陶冶である。しかし從來あまり考へなかつた職業指導といふ概念を從來の小學校教育へ導入するからには教育方法上努力の方面を多少變更しなければならぬ事もおこる。今各科にわたり特に留意すべき點努力すべき點につきて舉げて見よう。先づ教育一般へ對する留意點につき考察し次で各科にわたる事にする。



## 一 一般方針

- 一 基礎を徹底し應用自在ならしむ。教育は廣さよりも深さを望み、基礎となる教材を十二分に徹底して應用活用自在の境に進めなければならぬ。
- 二 自發活動に留意す。これは必ずしも職業指導上必要といはず、兒童の自發的發動的學習を尊重し、常に積極的に働きかける精神と態度とを養成すべきである。強く活きる人生はかくて出來上る。
- 三 結果主義に陥る事なく過程を尊重せしむ。人生は過程である。結果主義の授業は偏智學習となる。それでは活きた創造の人生に處する事は出來ない。
- 四 勤勞的作業的學習の尊重。勤勞教育作業主義教育は現代の叫び聲である。職業指導は一面かゝる思潮からも觸發された聲とも考へられる。要するに充目的にて全人的ぶつつかりである。之れは當然作業となり勤勞となり作爲となり體驗となる。
- 五 社會的要素に留意する。現代及び將來の最も大きな叫び聲は社會關聯といふ聲であり思想である。時代が進み文化が進むにつれて層一層かゝる聲は大きくなるであらう。教育の内容にも亦方

法にもかゝる要素を十二分にとり入れなければならぬ。

- 六 合科綜合學習の精神加味の要がある。本當の兒童の生活、遊戲の生活から作業の生活へ更に職業の生活への自然の道行きとして、又勤勞作業學習や過程主義や社會的關聯の學習を考へた時之れは當然合科的學習の精神が生れる。少くも低學年に於てはこの教育法が正しいものであらう。
- 七 プロジェクト加味の學習。人生は大きな課題と單元とである。いつまでも小刻みの題材の教育をしてはならぬ。プロジェクト法の精神を加味した教育法は優れた方法と考へられる。
- 八 郷土主義に立脚せよ。教育の出發を郷土に置き、教育の歸結を郷土におき郷土愛の燃ゆる熱と愛とに教育を構成すべきである。郷土主義は教育の個性化、特殊化である。唯偏狹な割據根性に惰してならぬ事は注意しなければならぬ。
- 九 實用主義を濃厚に加味する事。職業は人生々活の方便である。職業指導は當然實用的功利的色彩が濃厚である。惰落しない程度に於て實用主義に進まねばならない。
- 一〇 常識教育たれ。基礎を徹底するといひながらもなす空漠たる抽象論は役に立たない。選り出された常識教育でなければならぬ。世に學校教育が役に立たぬとの聲をさくが反省して見る要がある。

一一 發表を多くする教育たれ。うけ入れるまでが教育でなく、受け入れたものを發表するまでが教育である。正しく發表する事が出来たとき教育が正しく受け入れられたのである。學藝會・展覽會・競技會・運動會・文集作成等の如きも發表のよき機會である。盛んに利用すべきものである。

一二 藝術教科を尊重せよ。實用的になり、作業的になり、常識教育を尊重し、郷土主義になる事が情落すると兎角人間が現在主義となり、刹那主義となり、理想の世界に遊ぶとか幻想の美しき人世を送る事が出来なくなる。これは恐るべく悲しむべき結果である。一面藝術教科を尊重してうつとりとした上品な人生とせしめなければならぬ。

一三 宗教的陶冶の必要がある。職業は我利に陥る性質がある。人間は一日一日の生活を感謝して敬虔恭敬の裡につましく、しかも勇猛心を奮ひおこして進まねばならない。宗教的陶冶を叫ぶ所以である。

以上は學校教育の一般についてざつと思ひ付きを列擧したまでである。この精神を常に持して居れば職業指導教育としても正しいものと考へられる。更に各科につき其の努力點を列擧して見よう。

## 二 修身科

一 教材内容の研究と教材觀の確立とに於て特に留意すべきである。勤勞を教へた教材や、正直・誠實・奉仕・公益・公德等の教材につきては特に留意して人生科として取扱ひ徹底せしむべきである。

二 郷土資料及び日々の偶發事件をも加味して取扱ふがよい。教育が死んだ様な昔譚に終つてはならぬ。活きた現在の社會が教材でなければ彼等を活かす事はむづかしい。郷土資料を集めて細目に編入して取扱ふべきものである。

三 作法教授を忘れてはならぬ。一體に修身教育が教壇上の説話のみで終始し勝ちである。修身書にも所々に作法について注意がしてあり、文部省から出た作法教授要項もある。高學年までも怠らず新時代の人として必要な禮儀作法を實習しなければならぬ。

四 實踐指導に特に留意する事。修身の目的として徳性の涵養と實踐指導との二大要項が擧げてある。説話は唯高い抽象の理想のみではならぬ。一つ一つの教訓が兒童の實生活の實踐を指導しなければならぬ。

五 英雄主義を排す。教訓が實人生を指導する爲めには例話も亦一般民衆から採らねばならない。現行修身書は大分かうした事に注意されて居る。教師の取扱に於ても出来るだけ英雄主義から離

れなければならぬ。改正高等科の修身書などは更に進歩した點が認められてうれしい。

### 三 讀方科

- 一 文の本質を早くつかむ様指導する。讀書力が出來たといふのはこれである。第一讀で確かに大意文意をとる様指導せねばならぬ。何回もくりかへし讀まねば文旨が掴めない様ではいつまでも實用にはならない。
- 二 多讀の獎勵。讀書力讀解力をつける爲めには僅かの材料を精讀精査する事も必要であるけれども、廣く多く讀む態度が欲しい。教科書以外の補充文を以て多讀をなさしむるがよい。
- 三 補充文の選定に留意すべきである。廣告文や宣傳文新聞雜誌や手紙の類時文實用文等を多く補ふがよい。
- 四 書取りや全文視寫等も亦必要である。ともすれば忘れられんとする書取り全文視寫等も極めて必要である。實人生に於ては文章を書く様な場合はかなり多い。習つた漢字も大抵忘れて居る様では困ると思ふ。
- 五 ノート作業尊重。時間外の豫習復習又時間内の諸作業に於てもノート作業等尊重しなければならぬ。

らぬ。教師はつとめて檢閲して個人指導をなすと共に作業尊重をなさしむべきである。

六 文の改作脚本化劇化等亦必要。徹底のために、共同學習にするために、作業的勤勞的になすために、プロジェクトになすために。

七 職業理解職業精神陶冶に適する課の取扱は特に考慮してなさねばならぬ。この事については次の章に今少しくわしく書く事にする。

### 四 綴方科

- 一 生活指導的取扱ひに留意しなければならぬ。綴方は生活の表現であり、生活を指導するものであるとはよく言はれる。總べての教科がさうではあるが特に綴方は自己の内省に深くひ込むもので兒童の生活指導として深く留意するがよい。
- 二 實用文を尊重すべきである。廣告文・宣傳文・標語・商用文・各種の書式・日記・書簡文・祝辭弔詞の文の類等々人として必要な色々のある特殊の型のある文章がある。近來こんなものあまりに無關心になり過ぎた感がある。矢張り程度に應じて課すべきである。
- 三 課題主義亦尊重しなければならぬ。彼等の生活を自由に表現させることのみとらわれてはなら

ぬ。實用文は常に課題であるからである。綴方は藝術のみと考へてはならぬ。  
四 文集等の作成作業を課すがよい。表現の價値の外に之れを聚集・作成・装禎するの勞と完成の喜悅とよりうくる利益亦少くない。

### 五 書 方 科

- 一 硬筆書方を尊重しなければならぬ。まだ世間には随分毛筆の勢力があるけれども。然し硬筆の勢力は全く何處までも廣く及んで居る。實用といふ立場に於てはどうしても硬筆を更に尊重しなければならぬ。
- 二 細字尊重。美書、毛筆による審美心陶冶など考へた時大字練習亦必要であるが矢張り實世間の實際から考へると細字をうんと練習すべきであらう。六年以上となつては細字を中心にやるべきであらう。
- 三 速書の練習亦忘れてはならぬ。大抵書き方といへば美しく正しくをモットーとする爲に丁寧といふ事になり、速さなどは問題でないといつた場合が多い、しかし實用的に考へた時は正しく速くが其のねらひ所でなければならぬ。

- 四 自由文字の練習も忘る可らず。唯教科書も手本一點張りは感心したやり方ではない。時に全然自由のものを選び大書したり小書したり、千變萬化あらしめなければ本當の力はつかない。時に大唐紙へ書かしたり、時に短冊や色紙へ書かしたりも亦必要な事である。

### 六 算 術 科

- 一 總べて事實より入り事實に終る。これは近時の主張で明にかくあらねばならぬ。すべての計算が事實より出發し、それが抽象の世界に入り、再び事實に出て來なければならぬ。一つ加法を指導しても事實の問題より入り加法の形式算に進みやがて再び事實の應用問題へ出て終らなければならぬ。
- 二 程度の高きを望まず、低きも徹底し應用自在なるべし。唯僅かに理解したといふ程度では何の役にも立たぬ。自由にならねば本物でない。而して自由になるには基礎が徹底しなければならぬ。
- 三 實驗實測を重んじなければならぬ。一疋の概念、一立の概念、一米の概念は唯抽象的に數關係の上にあるのではなく、具體的に各自の筋肉に於て感官に於て了解しなければならぬ。それには

實事實物に就て實測したてなければ得られるものではない。すべては兒童の經驗の上に得たものでなければ本當の體得したものといふ事は出来ない。

- 四 郷土的資料及び直觀材料を巧みに使用して徹底しなければならぬ。研究すれば郷土にも計數的資料は無限に存在する。これをうまく利用して一層具體化し兒童化し直觀化しなければならぬ。
- 五 求積・歩合・幾何的教材等所謂實用的材料はうんと力を入れべきである。
- 六 問題には條件不備のものや、不能のものや、不用要素のあるものなど入れて變化あらしめて以て自由の域に進めなければならぬ。實人生は常に割り切れるものではないからである。
- 七 珠算科を尊重しなければならぬ。小學校に於てはともすれば忘れ去られんとする珠算の實世間に於ける勢力を見なければならぬ。尋常四年生より課する事を得となつて居るが必ずこの學年より課して充分練習し實用になるまでに進めておかねばならぬ。器械的のものだから少し系統的に練習すれば其の効果は著しく、どれだけ一生に利益するか知れない。

## 七 國 史 科

- 一 文化の發展を中心に扱ふべきである。尋常科の國史は人物中心政治中心になつて居るが矢張り

其の中に自ら文化の發展も織り込まれるし、高等科の國史は全く文化中心になつて居る。特に經濟史・交通史・風俗史等に留意せしむべき要がある。

- 二 郷土の資料より出發し、郷土愛に立つこと。

三 原因結果の關聯を明瞭にし、社會世相の推移の意義を充分に知らしめなければならぬ。事には據つて來る因あり、進みゆく果がある。世相も亦かくて因と果との車の如く廻るものである。

四 堅實な人生觀や社會觀を目指して進むべきである。國史は或る意味に於て人生科である。人間の生活を教へるものである。まじめに人生を考へるべき科である。

五 社會關連を重んじて取扱ふべきである。現象は突然興るものではない。因があり源がある。而してそれ等は何事も脈々として社會的背景を持つものである。國史眼亦かくて養成されねばならない。

## 八 地 理 科

- 一 人文地理を尊重し、自然は人生に意義ありてのみ學習の材料となる。海が深さも山が高さも人生と交渉なきものは地理の資料とするに當らない。すべては人生に於て意義があるものである。

- 二 産業・經濟・交通・貿易等は特に留意して取扱ふ事。
- 三 人口よりも其の動態に、面積よりも其の地力に、氣候よりも其の利用に、をモットーとして扱はねばならぬ。
- 四 郷土地理を尊重し教授は郷土の地理的觀念より入りやがて遠くに及ぼすこと。
- 五 殖民思想の養成に留意すべし。事實に於ては八方塞りの中に入りといへども國民養成に於ては強烈な殖民思想を植ゑつけねばならぬ。これは狭小な國土に入りきれない増加人口を有する我國としては必ず特に留意すべき點である。方法は先づ熱と力とのあふれた時生ずるものである。

### 九 理 科

- 一 生物教材に於て自然の生態形態の不可思議神祕に觸れしむると共に其の人生との關係即ち効用に深く留意せしめなければならぬ。
- 二 物化教材はすべて動的に機能とし、作用として扱ひ應用を重んずべきである。創作心發明心等の萌芽も亦そこにあるものである。
- 三 生理教材亦構造よりも機能及び故障としての疾病を重んじ以て實人生との交渉をもたしむべきである。

- 四 兒童實驗を重んずべきこと。設備や經費の關係より兎角實驗なしの授業となり勝ちであるが、工夫と努力と熱誠との不足に基因する事が多い。つとめて實驗せしむべきである。尙其の意味は主として歸結し發明せしむるために行ふ様工夫すべきであらう。但し證明實驗も亦大切な場合が少くない。

- 五 郷土の産業の理科的意義に徹底せしむべきである。

### 一〇 圖 畫 科

- 一 圖畫は描くものとのみ思ふはあやまり、見せる事即ち鑑賞の大切なことを忘れてはならぬ。大人の生活に於ては描くよりも見る場合の方がはるかに多いからである。
- 二 寫生偏重をいましむ。考案畫・圖案・記憶畫・見取畫・模寫・工作圖・幾何畫等各種の材料をとりたものである。且つ實用的見地に立ちてポスター、宣傳ビラ、レットテル、表紙圖、カット等も時折描かすがよい。
- 三 材料亦一二種に限らないがよい。クレオンと水彩とのみに限る傾がある。墨畫・ペン畫・鉛筆

- 畫・パステル・木炭・油等出来るだけ多岐にわたるがよい。畫紙の大きさも常に一定せず時に大きいものに小さいもの色々變化あらしむるがよい。
- 四 手工手藝等と連絡をとり所謂美術科として考ふるがよい。

### 一一 唱歌科

- 一 唱謠能の外に鑑賞に常に留意すべきである。文明の進歩と共に音楽は非常に普遍化民衆化して来た。歌ふ場合の外に聞く場合が非常に増して居る。聴く耳を作る事は極めて大切である。
- 二 色々の樂器を聴かすがよい。オルガン・ピアノだけが樂器ではない。鑑賞から云へばバイオリン・マンドリン・尺八・琴・ハモニカ何でもかすがよい。更に謠曲や長唄義太夫でも多少さく態度を養つて欲しい。
- 三 本譜讀譜の能を充分つけておく事、小學校を出て後はこんな事を學ぶ機會はない。本譜がざつと一通り讀めるだけの力をつけておくべきである。

### 一二 體操科

- 一 體力を養ふ。時々強き運動を加へて強き勤勞に堪へ得るの元氣に充ちた體力を養はねばならぬ。段々勞働に堪へる身體がなくなるうらみなさか。
- 二 ダンス舞踏其他の巧緻運動によりて軀幹及四肢の巧妙なる動作を自由にせしむべきである。
- 三 常に姿勢に留意し、身體各部の發達の整齊を期し、内臟諸機官のはたらきを自由ならしむべく留意する。
- 四 團體遊戲團體競技等を盛んにして一はスポーツマンシップの純正な性格を陶冶し、一は協同的社會的訓練をなす。
- 五 體操遊戲競技の外に事情の許す限りに於て水泳・スキー・スケート・登山・乗馬・劍道・柔道等をも加へて體力と精神と技術とをねる事が出来れば更に結構である。

### 一三 手工科

- 一 よりよき製作と共によりよき訓練に留意しなければならぬ。勤勞的作業の訓練と共に綿密・器用・整頓・清潔等の訓練を怠らない様にすべきである。
- 二 基礎陶冶の尊重。切拔・厚紙・木竹細工・金工等に於て常に基礎的の所作に留意し、之を基に

- して應用自在に發展せしむる様になさしめなければならぬ。
- 三 實用的材料を加へる。形式陶冶過尊重の弊は實用的の材料を排斥しやうとする傾さへある。實用的材料は形式陶冶に不都合だといふ理由はない。出来るだけ役に立つものたらしめなければならぬ。
- 四 時に大作をなすがよい。個人で又は數名聯合にて相當の長時日をかけての大作をなすがよい。其の上設計から費用の計算材料の注文までなすことによつてプロジェクト的に取扱ふ事が一層有効である。
- 五 唯に製作のみならず用具の鑑定法手法修繕法等にも馴れしむるがよい。

#### 一四 裁縫科

- 一 基礎の徹底と系統的指導との必要。何れの教科でも基礎を徹底する事と其の指導の系統的でなければならぬ事は當然であるが特に裁縫科の如き技能科に於て其の感が深い。
- 二 裏返し繕ひ洗濯法等の指導も亦忘れてならぬ。裁縫科は小學校教科の中最も實用の濃厚なものである。兎角新調のみ教へる弊に陥る。裏返し繕ひ洗濯等も亦指導しておく事を忘れてはならぬ。

- 三 時代世相の動き方に留意し兒童服の如き簡單なる洋裁に屬するものをも併せ課せなくてはならぬ。ミシンの使用等は是非練習して卒業さすべきである。

#### 一五 家事科

- 一 地方の民度や生活の様相を考へず、理想の教材高尚の材料をとるなどよく行はれる弊である。矢張り實地生活を指導しなければならぬ。
- 二 實習本位たれ。理論ぬきである事がよいのではないが口から耳への學問は本當の役には立たない。生活を實地に指導するためには實地に馴れる外ない。實習を重んずる所以である。
- 三 學校内生活の家事的材料を利用すること。學校内外清潔法の施行や、兒童用湯茶の供給、カーテン、前掛(手工用或は家事用)の洗濯等の如きものを直ちに實習材料として其の徹底を期すること。

#### 一六 英語科

- 一 程度の高からんより基礎の徹底をはかるべきである。何れ小學校の英語だから程度を高くした



とてわかつたものである。矢張り初めのところを多方的に取扱つて充分ものにする様に徹底すべきである。

- 二 レtterの読み方、手紙宛名の書き方、簡単な日用語の意味等實用的のものより入ることがよい。
- 三 文字がよめるとか、書けるとかいふ事も大切であるが、これ等を通して英米人の生活及び思想に觸れべきで所謂識見高い國際心の陶冶をねらふべきである。

### 一七 實業科

高等小學校として課すべき實業科は工業・商業・農業である。これ等は其の名の示す如く全く實用的職業指導的教科である。出来る限り實習を多くして其の名にそむかぬだけの陶冶をしなければならぬ。

## 第二節 各科の内容と職業指導

修身・讀方・算術・國史・地理・理科・圖畫・實業等各科の内容には職業の理解や職業精神の陶冶上最も都合のよい題材が少からず編入されてあるわけであるが、これまでは兎角職業などとは何の關聯も持たず事なく取扱つて來た傾がある。一例をとれば尋二國語讀本卷三に五一ぢいさんといふ題材がある。こゝを扱ふとして唯面白き叙情的の文章として仕舞ひ、客觀的に五一ぢいさんを面白い人、よい人、よく歌ふ人、よく働く人、或は遂には滑稽なおぢいさんとして仕舞つた觀なきか。勿論尋常二年の幼稚な兒童であるから大して程度の高い事は出來ないけれども愉快な人生觀の萌芽と、健全な職業觀の萌芽とを培ふ工夫を忘れてはならない。朝は早くから晩はおそくまで降つても照つても歌ひながら小糠だらけになつて働く五一ぢいさんによつて感謝奉仕の人生觀を養はなければならぬ。勞働の神聖と一日一日に全生命をかけて働く幸福とを味はせなければならぬ。この中に一種のユーモアの含んだ人生觀をも見逃してはならない。

「さぶ／＼おちる水の音、とんとんひびくさねのおと、そのにぎやかな中から

「しごとなされよ、さりさりしやんと

かけたたすきの される ほど。」

五一ぢいさんのうたふこゑがきこえます。

如何にも美しき愉快に働く人生が見える。そこを暗示として打ち込まなければならぬ。そこに人生指導職業精神陶冶の使命がある。同じく國語讀本卷七に航海の話といふのがある。遠洋航海を終へて郷里に歸り來つた太平丸の船長が一日町の小學校へ招かれて航海の話をしてゐる。船長はこの學校の卒業生であり、其の當時優等生であつたにちがひない。こゝを扱つたとして唯客觀的に航海の面白い事時には危険に出會ふ事もある事、日本は海國だから海を忘れてはならぬとの船長のはなしを其のまゝ聞く態度で終つてはならない。こゝには航海業に對する理解と趣味と心得とが暗示として織り込まれてあるわけである。即ち紙上の船長は學校に來て今職業講話をして居るわけである。其の精神を捕へなければ折角この課を學習した精神に徹したと云ふわけにいかぬ。勿論讀方科であるから國語本來の使命をよそにといふのではない。從來の扱ひ方に職業精神陶冶職業理解といふ強い一目的を挿入しなければならぬ事を強調するものである。

其の他地理あたりで一都邑を扱ふとしても何故そこに都邑が出來たか、如何に發展して來たか、現今の狀況如何とその發展を機能的に調べる事になれば住民の職業といふ事が大切な要素とならなければならぬ。日光の町は東照宮がありて出來たものであり、繁昌もする。隨て住民の職業なども考へられ、將來も考へられる。かくてこそ職業の發展進化も理解されるのである。圖畫なども題

材をいつも寫生にとる傾がある。工作圖や家具裝飾の模様や繪畫觀賞指導や等によつて人生を潤ひある趣味生活の出來る様に仕向ける事が大切である。考へ來れば總べての教科の内容にも少し考察すれば職業精神陶冶上よき題材が無限にある。これをうまく捕へなければならぬ。總ての教科にわたり、どの課では如何なる點に着眼すべきかを書く事は到底出來ないので、一二の例として國語讀本修身書及び國史教科書にあらはれた材料を考へて見る事にする。

### 一 國語讀本にある職業指導的資料

先づ國語讀本に例をとる事にする。ところで讀本に出て居る教材が職業理解にいかに関聯するかといふに大きく三方面となる。

- 一 職業の業態を理解せしむるもの。
- 二 職業生活の興味所謂職業精神陶冶をなすもの。
- 三 職業に就ての心得即ち態度を養成しやうとするもの。

の三つとなる。更に職業の業態を理解せしむるもの、中にも極めて一般的のものと、特殊な一職業の業態を知らしむるとあり、職業精神を陶冶するものにも一般に人生觀を作り職業觀を作る様なもの。

のと立志傳とがある。以下これ等の分類につれて教科書の教材を考へて見る事にする。

卷	職業々々理解	職業生活興味	職業心得	其の他
二	大工小屋	五いちいさん 私の村 麥まき おぢさんのうち	犬ノヨクバリ	柿
三	大賣出し	私どもの町	しひの木とかしの 一本杉	東京停車場
四	蠶	私のうち	用水池 郵便函 一足一足	
五	ブドウ	町の朝	ヤクワントテツピ	鮭
六	依の山 きのこ取り メリンス	冬の夜	入學した兄から けんやくと義捐	
七	注文 馬 カチ屋	初夏の夜 カチ屋	安倍川の義夫 木下藤吉郎	海ノ生物 彼岸

八	九	一〇	一一
看板 分業	炭焼	航海の話	山ノ秋
養鶏	弟から兄へ	今日	乃木大將の幼年時代 五代の苦心
麥打ち	軍艦生活の朝	初秋	老社長
いもほり	石安工場	登校の道	陶工柿右衛門
馬市見物	銀行	平和なる村	リンカーンの苦學
開墾	炭坑	我は海の子	たしかな保證
銀行	捕鯨船	南米より	畫師の苦心
裁判	植林		松坂の一夜
ゴム	ガラス工場		自治の精神
			鐵眼の一切經
			北海道
			貨幣
			燈臺守の娘
			進水式
			朝鮮人蔘
			税
			啞の學校
			助力
			手紙
			胃とからだ
			老社長

一二 商業 我が國の木材	新聞 まぐろ網	蜜柑山 舊師に呈す 港入	チャールスダウ キン トマスエヂソン	月光の曲 小さなねぢ 青の洞門	法律 電氣の世の中 我が國民性の長所 短所
高一 統計 契約 我が國の水産業	西洋紙の製造 筏流し 麥秋 植附前後の様子を 報ず	山村 漁船歸る 夏の田園	フェルヂナンドマ ゼラン 春日局 頼山陽 マヂソン夫人 瀧澤馬琴の苦心 船津傳次平	野火止の用水 人を周旋する手紙 かげぐち スバルタ武士 先づ農を重んぜよ	太田道灌 祖母の物語 廢物の利用 征衣上途 臺所の整理 かぶと蟲 故郷 害蟲と其の敵 ビスマークの幼時 人を紹介する手紙 學校園
二 農業	鯨釣 保險 警察と國民 海苔 稻刈 汽船トロール漁業	村の秋 山里の夕 春近し	堀田瑞松 福澤諭吉	社會奉仕の精神 碧海郡の農業	

三 會社	噴油 繭詰 果樹試作場 十和田湖の養魚 園藝	夏の晩 ハワイ通信 田園の自然 我が家	ベスタロッツチ 伊藤博文	×農村視察 土に立脚せよ	租税 ×デンマークの農業 兒島農場 讀書 世界の航路
四 資本 關稅					

上表の様に書き上げて見ると、讀本教材の中約四十%は何等かの形に於て職業指導と關係を有して居る。隨て讀本の取扱ひに於て其の心掛けにて職業意識を強くふき込めば其の効果の少からざる事は明である。而してこれ等を精細に眺むれば各種職業の代表的ものは大抵とり入れられて居る。二三の例を示せば

(イ) 農業に關するもの—蠶・ブドウ・俵の山・養雞・打麥・いもほり・開墾・麥秋・植附前後の様子を報ず・稻刈・果樹試作場・園藝・農業・先づ農を重んぜよ・碧海郡の農業・農村視察・土に立脚せよ・デンマークの農業・兒島農場等。

(ロ) 林業に關するもの—きのこ取・炭焼・開墾・植林・ゴム・我が國の木材・筏流し。等

(ハ) 水産業に關するもの—海の生物・捕鯨船・まぐろ網・漁船歸る・我が國の水産業・鱒釣り・海苔・汽船トロール漁業・罐詰・十和田湖の養魚等。

(ニ) 工業に關するもの—大工小屋・メリンス・カチ屋・石安工場・ゴム・ガラス工場・西洋紙の製造・罐詰等。

其他商業交通業・公務自由業等何れにしても代表する職業は何等かの形に於て教へる様になつてゐる。唯教授者に其の主旨をうまくのみこみてあやまらぬだけの用意を必要とする。

### 職業理解—業態理解

#### ☒ 一般業態理解

國讀尋卷七 第二十六 注文

呉服屋の注文状を電文と手紙文とで教へたものである。注文は商業家の日常生活中に織り込まれた重要な業務である。本課は注文状の書き方及び其の練習によりて商業に於ける注文の仕方及び其の方法を知らしめる。

國讀尋卷八 第十六 看板

看板の意味・種類・掲げ方等について教へて居る。特に時代と共に看板の掲げ方の進歩など書いた點は面白い。看板によりて商業職業の種類を知らしめる。

同前 第二十六 分業

前課「胃とからだ」をうけて分業の利益・分業の發達・社會の進歩と分業に就ての心得を教へて居る。總べての職業が分業である事を知らしめ、社會協同生活の妙味を味はしめなければならぬ。

國讀尋卷九 第十一 物の價

物價の生ずる理由、需要供給の關係によつて物價に高低の生ずる理由を知らしむる課である。商業家としては勿論農業家工業家等生産に従ふ者にも最も大切な心得を暗々に教へるものである。

國讀尋卷十 第十 銀行

銀行に關する常識養成として最もよい課である。銀行の意義・銀行の社會上の任務・預金貸金のこと・定期と當座との比較等を教へて居る。銀行業の業態を知らしめ一般企業界金融界の常識をつけるべきである。

同 第十五 輸出入

外國を相手の商業・國産製造の獎勵等商工業共に多くの暗示を與へて居る。

國讀尋卷十二 第六 商業

商業の社會的意義を説く課である。昔は個人の利益を營むのが商業であると思はれて居た。それ故自己の利益を除いては殆んど何物をも眼中に置かず忍耐も努力も皆自己の爲であつた云々と商業の社會性を説く。いはゞ商業の本質を教へるべきである。

同前 第十 我が國の木材

我が國の木材の種類・性質・用途・産地等を教へて居る。林業理解の一助となる課である。

國讀高卷一 第二十五 統計

統計の意義必要見方表はし方等を知らしむる課であるが同時に社會活動についての暗示、延いては職業分類職業統計等についての知識をも得せしむべきである。

國讀高卷二 第一 農業

農業は健康によく、着實勤勉の美風を養ひ、家庭を和樂ならしめ、趣味に富む仕事である事を教へて農業生活の興味を湧かしむると共に農業理解に資す。

國讀高卷三 第三 會社

現代の大資本を要する總べての事業が會社組織でなければならぬ事、會社の組織種類を知らしむ。

國讀高卷四 第十 資本

各種事業の基礎として資本の意義と種類、營業との關係に就て知らしめる。

⊗特殊業態理解

國讀尋卷四 第十六 大工小屋

挿畫と本文とによりて大工といふ仕事の業態を理解せしむ。勤勞の楽しさの暗示を見逃してはならない。

國讀尋卷五 第七 大賣出し

大賣出しの景氣によりて商業家の生活及び年中行事について知らしむ。

同前 第十三 蠶

生絲は我國輸出品の第一位を占むるもので、これなくば我が海外貿易は恐るべき結果となる。しかもこれが副業か又は女性の主なる仕事である事も面白い。本課は上簇前の繁忙の有様を知らしめて養蠶業の業態を理解せしむ。

同前 第二十四 ブドウ

この中に園藝・果樹栽培等に對する興味を暗示してゐる。

國讀尋卷六 第一 俵の山

閑静な田舎の情景、農家の一年中の骨折りが報ひられて喜悅に満ちた平和が味はれて居る。農業業態理解の一助となる。

同前 第四 きのこ取り

山の中でも三軒屋でも住めば都よ我が里よ。と歌ふ木挽の力藏さんによつて木挽といふ平和な職業を知らしめ、又きのこ取りから林業の一つに茸類栽培のある事まで考へしめる。

同前 第十一 入營した兄から

兵士の務、兵營内の生活を知らしめる。兵卒は職業とはいへないが、國民としての職務ではある。社會聯帶の任務としての兵士について考へさせる。

同前 第十 鮭

山間の子供でも農村の子供でも、副食物として鮭を知らない者は少いであらう。本課は其の生活状態を考へるものであるが同時に生活資料としての鮭を知らしめる。

同前 第十九 メリンス

織物に對する常識を養ふ。同時に織物工業及商業についても考へしめる。

國讀尋卷七 第八 馬

馬牧畜の業態を知らしむ。

同前 第十五 カヂ屋

鍛冶屋の職業々態を知らしむるのみでなく、労働の神聖、一生懸命働く者に與へらるゝ幸福感を味はしむべきで、堅實な人生觀、職業觀を培ふべき題材である。

同前 第十六 航海の話

太平丸の船長が航海の愉快を語るところで、紙上職業講話といふべきものである。

國讀尋卷八 第九 炭焼

木炭の焼き方を極めて丁寧に教へて居る。炭焼業の業態がよくわかる。

國讀尋卷九 第四 養雞

本業としても副業としても利益多く、家庭副業として將來のある養雞業について知らしめて居る。

同前 第十二 弟から兄へ

農家の弟が兄へ近況を知らす文であるが、その中に田植頃の農業經營の業態を知らしめ暗示して居る。



同前 第十四 麥うち

麥秋のいそがしき中に平和と喜悅とに満ちた生活を知らしめ、農業々態を理解せしむ。

同前 第十五 軍艦生活の朝

海軍兵の任務と一日の生活の状況をうつして居る。

同前 第十七 いもほり

學校園に出來たいもを掘る樂しみ。鍬シャベルの先きからじゅつつなぎになつて、ころ／＼と出る愉快。農業のたのしみが教へてある。

同前 第十八 石安工場

安ぢいさんを知る知らず、あゝあの角の石屋かと誰もうなづく工場の中にめがねを掛けてはつひ着て、朝から晩までコツ／＼と何を求めるでない平和な生活。誠に美しい人生が描き出してある。石工の業態理解のみでなく職業觀人生觀を作らすべき材料である。

國讀尋卷十 第四 馬市見物

馬市見物をした兄が弟に様子をくわしく知らす手紙文であるが、牧畜業馬匹賣買等の業態が教へられてある。

同前 第八 開墾

村はづれの雜木山を開墾して畑とする有様を見た少年が書いた文の形で開墾の有様がよく教へてある。

同前 第十四 炭坑

三池炭坑の坑内に入つて見聞きしたまゝを書いた文である。坑夫の活動状態がよくわかる様である。

同前 第二十二 捕鯨船

捕鯨漁業の業態がよく書き出されて居る。

國讀尋卷十一 第六 裁判

裁判の意義・刑事裁判と民事裁判の區別・裁判所の種類・判事檢事辯護士の任務・裁判の重要性等をくわしく教へて居る。同時に司法事務につく職業の業態をも知らしむべきである。

同前 第九 植林

林業の業態の中植林につき知らしむ。

同前 第十二 ゴム



ゴムの原料及び製造工程製品等について説明し、ゴム工業の將來についても暗示して居る。

同前 第二十七 ガラス工場

文と挿畫とによりてガラス工場の各種製造工程を知らしむ。ガラス全盛の世態より、之に従事する業の業態をも知らしむ。

國讀尋卷十二 第四 新聞

新聞の沿革發達其の社會的意義等より、社内の組織、編輯方法、印刷狀況、地方版等について知らしめて居る。新聞に關係従事する各種の業務の業態をも知らしむべきである。

同前 第十五 まぐろ網

漁業の中まぐろをとるだいぼう網の立て方を教へて居る。

國讀高卷一 第十八 西洋紙の製造

西洋紙製造の原料方法につきて教へてゐる。機械工業の代表の一つとして見るべきである。

同前 第二十六 筏流し

熊野川の筏流しの壯觀描寫によりて林業及び特殊な運搬業の業態を知らしむ。

國讀高卷二 第九 鱒釣

徳富蘆花の自然と人生からとつた材料で文學的作品ではあるが中に職業としての漁業の要素を見逃してはならぬ。

同前 第十 保險

保險の社會的意義特に社會共存の理想につき考へしめ尙ほ保險業といふ職業をも知らしむ。

同前 第二十 警察と國民

警察の意義を知らしめ、職業としての警官につき理解せしむべき材料である。

同前 第二十三 海苔

水産業の大切な一として海苔培養の方法及び海苔製造の方法を知らしむ。

國讀高卷三 第八 石油

石油の湧出する様を目撃して書いたものである。鑛物採取の一として原油をとる方法を知らしめて居る。

同前 第二十七 罐詰

食物貯藏保存の方法としての罐詰業について業態の大様を理解せしめて居る。

### 職業生活の興味

國讀尋卷三 第十一 五一ぢいさん。前掲

同前 第十六 私ノ村

平和の田舎の村の有様を示してゐる。「ドコカヲカノ下デニハトリガナキマス。モウオヒルニナツ  
タノデセウ。オ寺ノカネモナリ出シマシタ。」楽しい温い日が思はれる。

國讀尋卷四 第四 麥まき

親子が畑に麥まきをなす平和な情景。あやはかへして、子はくれうつて、廣いたんぼの麥まきす  
ます。「やつとすんだ」と見上げる空に、あすも天氣か夕日が赤い。」

同前 第六 をぢさんのうち

あつかいにゆき栗を貰つて歸るところ如何にも田舎農家の情味が溢れてゐる。

同前 第七 私どもの町

小さい町にも段々文明文化の浪が押し寄せて来る。どこにも美しい郷里がある。生活のたのしみ  
はいづこにもある。

國讀尋卷五 第九 私のうち

村はづれの私のうち、町にある私のうち、村の方はどかに町の方はせゝこましい騒がしい感じ

があつて片手落ちの感がするが何れも生活を叙して居る。

國讀尋卷六 第九 町の朝

ねむりから醒めた町の朝の活動を巧みに描き出してゐる。神経質らしい町の活動ではあるが人生  
々活をよく教へる。

同前 第十四 冬の夜

農閑の平和な冬の農家の情景が韻ある本文と挿畫とで巧みに出てゐる。人生の楽しさ「ゐろり火  
はとろく外は吹雪」の中におどる。

國讀尋卷七 第十一 初夏の夜

僅か八行の小詩の中に「夜に親しむ時は來ぬ」の氣持を描寫する。田舎の情景見るが様である。

同前 第十五 カヂ屋

或る詩人の村の鍛冶屋 (Village Blacksmith) からとつた材料である。親子二代朝から晩まで何  
を求めなくてもトントンカンと額に汗して働く人生を美しく教へる。人生觀を悟  
らしむるものである。

國讀尋卷八 第一 山の秋

山家に育つ人には恵まれた自然の美しさが待つて居る。

國讀尋卷九 第一 今日

生れる今日を描き出して居る。「よき日は明けぬさわやかに、朝日は出でぬ花やかに。いざ起でて勇ましく、我もはげまん、今日の業。」と。

同前 第二 トラツク島便り

氣候が悪いであらう、悪疫が流行しやう、住みにくい土地だらうと思つた南洋が案外よい土地で美しき珍らしき自然に驚いて居る形です。殖民思想を養ふによい課である。

同前 第十八 石安工場（既出）

尋常科の讀本の中に特によく働く三人の老人がある。五一ぢいさんと、鍛冶屋のをぢさんと安ぢいさんである。

同前 第二十一 初秋

田舎の初秋の氣持がよくあらはれて、楽しい農家の生活が思はれる。こんな課で郷土を愛しなかつかむる思想を養成すべきである。

國讀尋卷十 第十六 登校の道

いそ／＼と登校する道は平和に幸福に満ちた田圃である。

同前 第二十五 平和なる村

短い文の中に楽しい平和な村がよく書き表してある。正業副業、村長校長、青年團等を出して村の生活がよくわかる様にしてある。

國讀尋卷十一 第十九 我は海の子

生れて潮に浴して、浪を子守の歌と聞き、千里寄せくる海の氣を、吸ひてわらべとなりけり。海濱に職持つ身の強きを歌つて居る。

同前 第二十三 南米より

ブラジル視察の父の便りに殖民思想を養成すべきである。

國讀尋卷十二 第五 蜜柑山

沖を走るは丸屋の船か

丸にやの字の帆が見える。

調子のよい蜜柑採歌がすみきつた晩秋の空氣をふるはして何處からともなくのどかに聞えて來る……と書き出し

小春日和の暖さにとけて其處からも夢のやうに船歌が聞えて来る」と結ぶ果樹栽培の生活と平和を教へてある。

同前 第二十四 舊師に呈す

吳服屋へ小僧に入りし子供が忍耐を第一に感謝の生活をなし居る有様があらはしてある。よき教訓を與へる。

同前 第二十五 港入

船は今靜かに歸る。懐かしき故郷の港。遠洋に漁する身の樂しみを語つて居る。

國讀高卷一 第十 山村

山村の四季の行事を巧みに面白く書き出して居る。田舎といふな、そこも亦故郷の美しき世界があるに。

同前 第二十三 漁船歸る

大獵をした漁船がかけ聲も勇ましく歸り來る夕方の濱の情景を美しく書き出して、平和な漁村を描いて居る。

國讀高卷三 第十九 夏の曉

夏の曉男の子乙女子が野に草刈るの詩景を描く、働く身には憂なし。の心境うつし得て妙なり。

國讀高卷四 第二十 我が家

大町桂月氏の文で我が家をうつして妙、田園生活の味がよくあらはれて居る。

### 立志傳

讀本に出た偉人の傳は何れも職業といふ方面から見ても立志傳と考へてよい。皆何等かの意味に於て苦心し勉勵し努力し修養して成效を勝ち得た人のみである。老いて學に志した小野道風、蕃人教化の犠牲となつた吳鳳、よく困苦に堪へ鍛練身心を磨き上げた乃木將軍の幼年時代、農學完成に努力精進遂に大成した佐藤家五代の苦心、倒れても立ち倒れても立ち遂に成效した老社長、陶器の色出しに苦心し美術史上に名を残した陶工柿右工門、其他リンカーン・ダーウキン・エヂソン・マゼラン・春日局・頼山陽・マヂソン夫人・瀧澤馬琴・船津傳次平・堀田瑞松・福澤諭吉・ベスタロッチ・伊藤博文等何れも強く感激せしめ教訓する教材である。これ等について一課一課其の狙ひどころを書くべきであるが長くなるので省略する。

### 職業心得

國讀尋卷二 第六 犬ノヨクバリ

自分に一つ持つのに更に外のを羨むとすべてを失ふ結果とさへなる。一つの職業を守るの暗示として面白い。

國讀尋卷四 第十五 しひの木とかしのみ

立志の必要、目的の遠大とたつてたゆまぬ努力の必要とを教訓してゐる。

同前 第二十 一本杉

人間世相の移りゆき、失敗あり成効あり、不幸あり幸福あり、人生觀を教へ同時に色々の心得を教へてゐる。

國讀尋卷五 第十九 用水池

一庄屋があらゆるものを犠牲にして用水池を作つて村の後々のために盡した苦心譚である。努力は大きい程報いられる事も大きい。そしてそれは永久の生命となる。

同前 第二十二 郵便函

郵便函が自己のつとめの神聖を告白し郵便の制度について談話する文である。社會聯帶の思想が暗示として織り込まれて居る。

國讀尋卷六 第三 ヤクワントラッピン

藥罐と鐵瓶とが銅と鐵との効用について自慢争ひをしてゐる。すべてのものに用途あり、人間にも亦棄る人はない。

同前 第十一 入營した兄から

入營した兄が弟に軍人としての心得をとく。

同前 第十七 けんやくと義捐

金錢は貯蓄すべきだが、それは使ふため使ひ方があることを教訓する。

國讀尋卷七 第十七 安倍川の義夫

如何にも勞働は神聖だといふ事を巧みに教へて居る。まづしい渡し稼業をして居ても心にゆがみのない人生が美しい。

「さあ道を急ぎなさい、私は渡場へ歸つて人を渡します。」「たとへ親子の者が餓死をするやうな事があつても人からいはいれなく金を貰はうとは思ひません」。

同前 第十八 木下藤吉郎

偉人は教へる。「はいこれが御奉公だと思ひますれば少しも寒くはございません」信長の前に温い草履を並べてのべる。深刻な教訓ではある。

同前 第二十二 助力

世は相持ち、人間は同情し合つて生活するものだ、社會性はそこに芽をふく。

國語尋卷八 第八 手紙

小ぞうから主人へ、主人から小ぞうへ。主従か雇傭か兎に角情と情、主は従をいたはり、従は主を思ふ。かくてこそ美しい職業生活が展開する。

同前 第二十五 胃とからだ

口耳目手足がストライキをやる、結局自己の苦惱だといふ事を體驗する。胃靜かに教訓する「世の中といふものはすべて相持のものです」と。世相に對するいゝ暗示がある。

國語尋卷十 第二十四 たしかな保證

何よりも本人の行がたしかな保證だ。行ひがすべてだといふ事を教訓するが同時にこの課は口答試問のうけ方をも示して居る。

國語尋卷十一 第十一 畫師の苦心

畫家が自己の技に忠實なる美談の中に藝術家の心意氣を織り込んだはなしで少からぬ教訓を含んで居る。

同前 第十七 松坂の一夜

「老學者の言に深く感激した宣長は未來の希望に胸ををどらせながらひつそりした町すぢを我が家へ向つた」この感激を職業につく人誰も持たねばならぬ。大研究には大なる感激と大なる忍耐とが在る。

同前 第二十五 自治の精神

自治制の圓滿なる發展には其の人民と自治體の役員とに自治の精神が充ちて居なければならぬ。そは同時に職業人としての心得でもある筈である。

同前 第二十八 鐵眼の一切經

畫師の苦心・松坂の一夜・鐵眼の一切經何れも何れも強き人生への驢である。不屈不倒鐵眼の努力があつて初めて名を永久に残し得る。

國語尋卷十二 第九 月光の曲

冴え渡る月光を題に叩くピアノの音は藝術家の態度を教へて居る。

同前 第十二 小さなねぢ

小さなねぢも亦大切なもので、とり換へのないものである。身體が弱くも學業成績が劣るも世に

唯一人も棄てらるべき人はない。なくてはならぬ筈で神様のみ恵みによつて生れ出た者である。自重しなればならぬ事を訓へる。

同前 第二十一 青の洞門

「かうして老僧禪海が始めてのみを此の絶壁に下してからちやうど三十年目に彼れが一生をさげた大工事が美事に出来上つた」偉大な事業には偉大な努力と苦心がある。

國語高卷一 第七 野火止の用水

すべての事業には工夫と努力と根氣とが入る。野火止の用水をとるために拂はれた犠牲は職業人に色々の事を教へて居る。

同前 第二十五 スバルタ武士

スバルタ武士の教養法と理想とを書いたものであるが、總べてを國家のためにと考へるところに非常に深い教訓がある。

國語高卷二 第五 社會奉仕の精神

「公益をはかるの第一歩は各自己の職業を通して社會に貢献するにあり、職業は個人が社會の活動の一部を分擔して社會の繁榮を致すの道なれば各自責任を以て之に當らざるべからず云々」と

社會奉仕と職業との關係を審かに説いて居る。訓へられる課である。

其の他

以上で職業々態理解に適する教材、職業生活の興味を教へる教材、職業心得を訓へる教材につき極めてざつと書いた。尙これ等の外に間接に職業に關與する材料となるものが少くない。例へば卷四に柿といふのがある。柿の接木によつて田舎の生活の趣味がうまくあらはしてある。同卷六にある鮭は國民の多數の副食物となり居る鮭の生育狀況を教へて居る。矢張り生活に間接に關係してゐる材料である。卷七の海の生物は水産業の漁獲物となるものであるから其の意味に於て關係がないとはいはれない。卷八の啞の學校は盲聾啞學校の如き特殊の教育について知らしめて居る。又朝鮮人蔘や税等もそれ〳〵職業と關係を持つて居る。卷十の燈臺守の娘には公的職業に對する責任の意義が教へられ、進水式では海軍工廠に於ける活動状態がうかゞはれる。卷十一の北海道や貨幣もある意味に於て關聯がある。卷十二の法律は法治國の國民としては是非心得て居なければならぬものである。我が國民性の長所短所でも色々教へて居る。高等科となつても祖母の物語・廢物の利用・征衣上途・かぶと虫・故郷・人を紹介する手紙・學校園・租税・兒島農場・讀書・世界の航路等何れも色々なことを同様に教へて居る。

二 修身教科書にある職業心得に関する教材

修身教科書にある職業との関係の教材は大體に於て職業についての心得をとくものである。概要を表の形に於て述べる事にする。

年 卷	題 目	摘 要
尋卷一	三、なまけるな	何事をするにも怠惰であつてはならぬ事を教へてゐる。
尋卷二	四、自分のことは自分でせよ	自立自營の精神の萌芽を養ふ。
	五、勉強せよ	仕事をするにも學問と同じく勉強でなければならぬ。
尋卷三	一四、正直	正直は總べての行ひに於て大切な事を教へる。
	二三、工夫せよ	職業を執る上に於て工夫改良の必要なることを知らしむ。
	四、しごとにはげめ	二宮金次郎の例話により勤勉なるべき事を知らしむ。
	六、整頓	何事をなすにも整理整頓の必要なることを教ゆ。
尋卷四	一九、恩を忘れるな	永田佐吉が成功して舊主人に報恩する美談より小僧店員としての心得にまで及ぶ。
	二一、けんかう	健康は總べての基である特に職を持ちて人生に戦ふ時其の感切である
尋卷五	四、志を立てよ	先づ立志の必要をとく。

尋卷四	<p>八、勉強</p> <p>九、規律</p> <p>一一、忠實</p> <p>一二、身體</p> <p>一三、自立自營</p> <p>一五、志を堅くせよ</p> <p>一六、仕事に勵め</p> <p>一九、よい習慣を作れ</p>	<p>渡邊登が艱難辛苦の中に勉強して漸く偉大なることを知らしむ。</p> <p>職業生活に規律の必要を説くべきである。</p> <p>子守つなの職に忠實なりし美談。</p> <p>職業生活の基礎としての身體の養生法につき知らしむ。</p> <p>自立自營の精神の必要と心得をとく。</p> <p>立志したらあくまでやり通す決心と忍耐とを必要とする。</p> <p>圓山應舉によりて畫家の苦心譚に感激せしむべきである。</p> <p>習性となるまでゆかねば仕事の能率は上らない。</p> <p>軍人は戦場に於て國民は農場に立ちて全力を擧げるところ舉國一致がある。</p> <p>古橋源六郎の事蹟は全く職に忠實なる鑑である。</p> <p>産業振興の必要と方法とにつきて考へしむ。</p> <p>伊藤小左衛門兄弟が協力産業に勵みし例によりて専心職につくすべきをとく。</p> <p>何事も積極的でなければならぬ所以をとく。</p> <p>赤貧の中に勤勞した作兵衛の事蹟感激せしむ。</p> <p>不屈不撓の精神が何事にも必要だといふ事を悟らしむ。</p> <p>職業遂行になくてならぬ精神であり心得である。</p> <p>家政を整へ主人の職業を補ひ助けて子女を教養する心得につき知らしむ。</p>
尋卷五	<p>三、舉國一致</p> <p>五、公益</p> <p>九、産業を興せ</p> <p>一一、兄弟</p> <p>一二、進取の氣象</p> <p>一三、勤勞</p> <p>一四、勉強</p> <p>一四、一五、勇氣忍耐</p> <p>一八、主婦の務</p>	



<p>尋卷六</p> <p>三、國運の發展 五、忠君愛國 九、進取の氣象 一〇、工夫 一一、自立自營 一三、共同 一六、良心 一九、國民の務 二一、男子の務女子の務 二二、勤勉</p>	<p>特に産業發展の狀況につきくわしく知らしむ。平和時の忠君愛國は各自が己れの全力を擧げて職務に盡すにあること、職のためには危険に頻する事もある。井上でんによりて職務に工夫創作改良進歩を加ふべきを教ゆ。「天は自ら助くる者を助く」獨立心の培養をなすべきである。世の中は相助け相倚りて美しくなる利己は決して正しい事でない。職業の何たるを問はず良心の命に従ふべきを教ゆ。納税兵役の心得につき知らしむ。職業人として自ら差異あること及び我が家族制度につき知らしむ。伊能忠敬によりて勤勉が職業につき極めて必要な所以を知らしむ。</p>
<p>高卷一</p> <p>二、愛國 三、家 七、至誠 一〇、責任 一二、進取の氣象 一四、職業 一五、勤勉</p>	<p>愛國は國民各自が自己の本分を完全に盡すことに外ならない。家族制度と職業につき知らしむ。二宮尊徳の例話により何事にしてもなすべき職務に至誠がこもらねばならぬ事を知らしむ。どんな仕事をなすにも責任を持つて之に當るべきを教ふ。目に一丁字なき吉良平治郎の殉職美談に感激せしむ。特に日本人として必要な徳として強く説くべきであらう。例話牛島謹爾成功美談は深く教へるものがある。職業指導全體を一課にまとめて居る。精出せば氷る間もなし水車。全く職業精神を教へて居る。</p>

<p>一六、自立自營 一九、禮儀 二〇、公德 二一、公正 二四、共同 二七、戊申詔書</p>	<p>依他的であり依頼心強きは邦人の一缺點と見られる。屢々自立自營の精神を説く様になつて居る。禮儀は社會性の情的表現と見る。すべて高等科となりては社會性を陶冶する様心掛けねばならない。法治國の民として何事をなすにも公正の理念にて終始しなければならぬ。社會生活は共存共榮の理念によつてのみ繁榮し發展する。經濟立國産業立國の今の世相より見て謹しみて承るべき御教訓である。</p>
<p>高二修</p> <p>第七、夫婦 第十二、業務 第十五、十六、公益世務</p>	<p>夫婦相扶け相補つて職に勵み一家の繁榮をはかるべきを教へて居る。業務とは職業本務といつた概念で人としてなすべき務の意味である。淡路の賀集現平の淡路燒を完成するまでの苦心が例話として擧げてある。公益世務即職業といふ關係はないが人としての本文がよく美しく書き出されてある。金原明善翁の事蹟が審かに書き示してある。</p>

三 國史教科書に現れた職業的資料

國史にある職業に關係ある題材は大體に於て職業の沿革を説くものである。これは同時に間接に現代の職業を理解する事ともなる。前の修身と同様に一覽表の形にする。

尋五 國史上卷

一天 照大神 農業を教へ給ふ。(狩獵から農耕へ)

- 四 神功皇后 三韓服屬と貢物。機織裁縫工女の渡來。
- 五 仁德天皇 勸農の御事蹟。築堤築池。
- 六 聖德太子 支那との交通。建築・鑄金・彫刻・繪畫の進歩。
- 九 聖武天皇 佛教隆盛。建築・彫刻等の發達。白壁・瓦等の進歩。
- 一〇 和氣清麿 行基等の公益事業。(橋梁道路港等)
- 一二 弘法大師 萬農池を築く。公益事業多し。
- 一九 武家政治の起 質素儉約。尙武の美風。武士道。
- 二八 足利氏衰微 茶の湯。東山時代の美術。
- 三一 毛利元就 一家主從共同一致。

尋六 國史下卷

- 三三 織田信長 安土城を築く。
- 三四 豊臣秀吉 微賤から身を起し天下を掌握した。發奮せしむ。
- 三六 徳川家康 少年時代の辛苦。飼鳥の話。(模倣を戒む)
- 三八 徳川家光 鎖國政策。産業交通の不振。

- 四一 大石良雄 淨瑠璃。芝居の流行。
  - 四二 新井白石 粗悪なる貨幣と物價騰貴。
  - 四三 徳川吉宗 儉約。洋書解禁。産業奨励と發達。
  - 四四 松平定信 勤儉貯蓄の勵行。
  - 四八 攘夷と開港 和親條約。通商條約。
  - 五一 明治天皇 人材登用。條約改正。韓國併合と開拓。文物制度の大進歩。
  - 五二 大正天皇 歐洲大戰と財界の混亂。南洋委任統治。
- 高一 國史上卷
- 一 神代 狩獵時代から農耕時代に。大國主命醫藥の法。植林の事業。
  - 三 皇太神宮の創立 上古の國民生活の有様と職業狀況。
  - 四 皇威の振興 調役の制度。崇神垂仁天皇の勸農。
  - 五 朝鮮半島の服屬と文物の傳來 文氏の記録職。歸化人の機織裁縫職等。雄略天皇農桑の御奨励。豐受大佛の傳來と美術工藝の發達 神の祭祀。支那から織縫工女の渡來。百濟から綿織・陶工・畫工の渡來。
  - 六 佛敎の傳來と美術工藝の發達 三韓建築彫刻・繪畫の技師渡來。雲徴紙・墨・繪具を傳へる。
  - 七 支那との交通 學問の傳來發達。

- 八 大化の改新 上古民族制度。世襲制度。官制の改革。租庸調の制度。
- 一〇 律令の制定 水時計。諸制度確立。
- 一一 奈良時代の學藝 和銅鑄錢。商業の發生。(物品交易の不便を除かんす)
- 一二 奈良時代の佛教 大佛の鑄造。大佛殿建築。(技術家の偉大なる能力)
- 一五 朝臣の榮華と文化 貴族生活の向上。衣食住の改良進歩。
- 一六 武士の興起 全國皆兵制破れ。(兵農分離)
- 二二 鎌倉時代の文化 榮西宋から茶の種子を傳ふ。陶器の製法や甲冑製法發達。
- 二三 北條氏滅亡 米價調節。
- 二六 室町時代の盛時 幕府の職制。義滿明と交通し。永樂錢の輸入。
- 二八 室町幕府の衰微 倉役。(質屋に課税) 徳政。
- 二九 室町時代の文化 茶の湯流行。插花・能樂の流行。蒔繪陶器の製法。
- 三一 戰國時代の大勢 毛利家の一致協力富強となる。
- 三二 邦人の海外渡航 國民の海外發展。ポルトガル・イスパニヤ人の來航。
- 三三 西洋人の渡來
- 高二 國史下卷

- 三三 國內の統一 諸國の田地測量。貨幣鑄造。
- 三四 邦人の海外發展 邦人の海外發展。御朱印船。
- 三五 江戸幕府創設 江戸幕府の職制。鑛山發掘。
- 三六 外國との交通 外國人の渡來。外國との交易。
- 三八 産業學問の發達 回漕業・飛脚業の起元。淨瑠璃・芝居の流行。
- 三九 元祿時代の文藝 惡貨鑄造と物價の騰貴。良貨改鑄と世相。外國貿易制限。洋書解禁・蘭學の研究。醫術の發達。産業獎勵。
- 四三 江戸幕府の中興 洋學の發達と開港の始末。
- 四五 明治維新 洋學者と開港説。通商條約。
- 四六 邊境の開發隣國 五ヶ條御誓文と人材登用。新政府の良政。廢藩置縣。開港の方針。
- 四七 外交の進歩と社會の變遷 北海道への移住。拓殖の發達。
- 四九 文化の發達 國民皆兵。郵便電信初まる。鐵道敷設と運輸事業の一變。人力車發達。
- 五〇 條約改正と法典 農業・工業の獎勵發達。日本郵船・大阪商船會社設立。兌換券制度確立。
- 五三 明治三十七八年 條約改正の苦心と成效。
- 五五 戰役 韓國・樺太・關東州へ移住。漁業・鑛山業・林業の發達。
- 國運の進歩 海運業・農業・工業等の進歩。金貨本位の改定。交通通信機關の完備。日本劇の外、西洋劇及映畫流行。彫刻・建築・染織・陶器・漆器等に洋風加味發達

五八 總括・國民の覺悟 國民の覺悟―産業貿易に努力すべき事。

#### 四 地理教科書にあらはれた職業的教材

地理教科書には更に多くの職業的教材資料がある。地誌の産業に關するところ、經濟に關するところは全部職業に關係するものであるし、都邑にしても其の發達は多くは産業と直接に關係し、交通も多くは産業と關係を有するものである。氣候や地勢にしても亦産業と關係し、文化の状態も産業と關係するから、どこにも嚴密にいへば地理書全部が職業と深い關係にあるとも考へられる。一課一課どんな關係があるかを書くことは省略する。

#### 五 理科教科書にあらはれた職業的教材

「あぶらな」は蔬菜園藝の趣味を養ふことが出來、「つゝじ」は園藝知識と其の趣味を養ふ事が出來る。「水晶」は水晶工業と關係せしめ、「竹」は竹細工や筍栽培と關係さして考へる事も出來る。又「石油」は採油礦業・製油業・石油商等と關係せしめ、「硫酸」や「アンモニヤ」はこれ等の製造工業に關係づけて考へさす事も出來る。か様に考へた時には理科の教材一課一課すべて職業と關聯を持

つ。これまでの一般の教授態度が多くは理科を人生々活と密接に關係づける事が少かつたと考へられる。職業的に扱ふ事が必要である。

#### 六 算術教科書にあらはれた職業的教材

考へ方によれば一問一問に職業指導の要素がある。米價の問題があれば米穀商について知らしめ書物を買ふ問題があれば書籍商について知らしめる。この様にすると大抵の職業は問題の中にどんな形に於てか織込んである。殊に尋常六年二學期の歩合利息租税公債株式等の如く直接生活上必須の知識に屬するものも少くない。

#### 七 其の他

家事科・實業科・圖畫科・綴方科等にも色々の意味に於て職業と關係するものがある。同じ綴方をやるにしても常に自己鑑賞か客觀描寫かといつたものに偏すべきではない。日用必要の書簡文や願届書式の練習や廣告文宣傳文の如きものの練習をなすことは極めて大切な事だと思はれる。實用的であることが即ち人生生活指導であり、延いて職業とも直接關係をすることになる。各教科と職

業指導との關係についてはこれ位に止める。教師は常に其の心組を以て教育に當り遺憾なきを期せねばならない。

### 第三節 職業的訓練

職業を理解せしめ、職業選定の能を得せしむるのが主として教授に於ける任務だとすれば、實地の職業遂行の方法を體得し、職業敢行の習慣を身に得るのは學校訓練の任務だと考へてよい。掃除一つなすにも、庭園の手入一つなすにも、自治會一つ開くにも總べて其の中に他日職業に就いた時なさねばならぬ行爲が包藏されて居て、これが訓練を待つて居るのである。勤勉忍耐の習慣だとか協同協調の精神だとか、整理整頓の良習だとかいつた事は何れもかゝる訓練の機會に於て陶冶されなければならぬ。本節に於ては小學校に於ける訓練の職業と最も密接な關係を有するものにつき如何なる點に於て如何に關聯すべきかを考察しやうと思ふ。

先づ小學校に於ける訓練的の機會に就て考へて見る。

#### 一 朝會・晝會・夕會

- 二 掃除
- 三 學校園手入・花卉栽培・動物飼育・農業實習
- 四 工業實習・校舎内外修理事業
- 五 商業實習・賣店作業
- 六 自治會・學藝會・展覽會・各種競技會
- 七 文庫・雜誌作成・成績物家庭廻覽作成 新聞切抜作業
- 八 標本作成・措葉作成・教辨物用意
- 九 紀念日行事・誕生祭・偉人祭・神社參拜・墓地掃除（雛祭・端午・七夕祭・クリスマス等）
- 一〇 遠足・旅行・郊外教授・登山
- 一一 運動會・競技會・團體競技遊戲・水泳大會
- 一二 教室裝飾・揭示施設
- 一三 兒童入退學歡迎會送別會・弔慰・クラス會

舉げ來れば訓練的の機會はいくらでもある。或は教授の仕方を全科取扱にする事やプロジェクト的取扱を多くとり入れる事によつても訓練的に陶冶の機會が多くなるわけである。さて然らばこれ等

の機會に於て如何なる性情が陶冶されるべきであるか、又これが人生々活に於て如何に必要な訓練であるかを考へて見ねばならぬ。主として陶冶される性質としては次の如きものである。

勤勉・忍耐・責任・正直・誠實・禮儀・協同・清潔・整頓・綿密・從順

これはあまりに徳目的であるが、更に之を具體的に云へば、仕上がるまで勞を厭はず根氣強くやる性質・何をして先づ計畫し出來上つたら反省するの習慣・多人數共同でなす場合よく協調の精神を以て互にゆづり互に扶け合ふ性質・あらゆる感官の正しき聯合・手先の器用・集團のために己れをすてるの犠牲奉仕の精神・跡片附を立派になす習慣・何事も自治的にやる心掛等を挙げれば限りなくある。これ等は何れも他日職業人として立つた時缺く事の出來ない性質であつて、學校時代に於る程度まで根氣よく陶冶されなければならぬものである。

次に右列擧した訓練的行事の中代表的のもの二三を抜き出してそれが陶冶されねばならぬ性情と如何に關係すべきかについて略述しやう。

(一) 掃除 掃除は學校教育に於ては最も重要な作業の一である。即ち不潔になり塵埃が立ちて學習場として不快であり、都合が悪いが故に止むを得ず課す作業と考ふべきではなく、教育的見地に立ちて作業的訓育的價値の方面に着眼してこの作業を施設しなければならぬ。云ひ換へれば學校には

掃除をなすべき小使があり傭人が出來たとしても尙ほそれ等になさしめず兒童に掃除せしむべきである。隨て指導もそこに重點がおかれねばならぬ。掃除には毎日なす普通掃除あり、毎週一回なす大掃除あり、又毎學期一回位なす大々の掃除もあり。教室の掃除・特別室の掃除・運動場の掃除・便所物置等特別の場所の掃除・或は氏神様の境内の掃除とか村の共同墓地の掃除とか種類も色々あり、方法も乾燥掃除・濕潤掃除・塗油法等色々ある。それ等につき多少の心掛けを異にするが大體其の狙ふところ訓育的効果として考ふべきは次の如きものである。

勤勉。自分自分受持ちの仕事を一心不亂に汗水出して働いてこそ能率高くやれるのである。先づ勤勉でなければならぬ。同時に根氣の強い事を要し勞を厭はぬ心掛けを要する。

協同。一定の人數で一定の時間に一定の作業を終らねばならぬ。仕事を手別けして相扶け相補ひて能率高き勞作を必要とする。

能率。職業遂行上最も大切な心掛けである。時間と結果とに無駄と不完全とのなき様によく早く仕上げる稽古としても最もよい訓練である。

自治。掃除が自治的でなければならぬ事は明瞭である。硝子一枚拭ふにも、机一つ動かすにも自治能力を發揮するところに能率高き操作がある。

衛生。衛生的知識と衛生的勞作とを必要とするは勿論で掃除の起元もそこから出發して居る。

其の外責任だとか整頓整理だとか綿密だとか等々色々な陶冶をなす。

(二) 花卉栽培・動物飼育 學校園や植木鉢へ四季折々の花卉を栽培するといふ事や、校庭や教室で小鳥・金魚・兎・白鼠等を飼育するといふ事は情操教育の上からも極めてよき施設で近時廣く行はれて居る事である。矢張り兒童の作業としてよい施設である。學校の農業科實習としては稻・麥・雜穀・野菜等を作り又牛・豚・山羊・鶏等を飼育する事も行つて居るがこれ等も同様よき訓育的施設たるを失はない、これ等は職業人として立ちて後の生活にもある事で「たとへ農業に従事しない人でも趣味として花卉栽培や小動物飼育は誰もする事である——本當の稽古としても面白く形式的には勤勉・忍耐・責任・同情・清潔等の良習慣を養ひ得る。

(三) 自治會 結局人間は自學し自修し自治し得なければならぬ。いつまでも依他的で他動的で責任が他人にある様な生活をしてはならぬ。道徳も其の通りで、人に指示されては守るといふ風では其の指導監督が無くなると行はれなくなる。それではいつまで経つても自立の人格は出来ない。自治訓練はこゝに立脚する。兒童相互に反省し合ひ、相戒しめ合つて良習慣を形成しようとするものである。職業人として自治能力の必要な事は申すまでもない。かくて自治會が職業的人格陶冶上有效

である事は明である。其の上自治會の如き協議風の會合は人生の年中行事には常にある事であるし、協定して決定した事項に對する從順な心持などもよき訓練である。

(四) 遠足・旅行 學校の年中行事の一つであるところの郊外遠足・登山・鍛練旅行・修學旅行等も亦何れも色々な意味に於て人としての訓練を行ふ。遠足・登山・鍛練旅行等の忍耐力を養ひ困苦缺乏に堪ふるの良習慣を養ふ事や、勤勉努力の美風を陶冶する如き、或は修學旅行に於て乗物の乗降や工場其他の參觀、名勝舊跡等の巡覽、神社の參拜に於て色々な作法や公德の實際にふれて陶冶する如き機會は總べてよき訓練の場所である。

(五) 運動會・競技會 人生の戦場に立つ勇士はさながら運動會や競技會に於てトラックやフィールドに立つ選手とかわりはない。其の緊張と努力と熱心と意氣とに於て敵を壓倒するに非ざれば勝つ事は出来ない。職業戦線に立つ兒童の心意氣と緊張とはかゝる機會によく陶冶されなければならぬ。運動選手のス波特ツマンシップの性質は矢張り職業人としても必要な性質である。まして一縣一校を代表した選手となる如き場合の悲壯な決心は人として人生の戦ひにも持ちたきものである。

(六) 記念日行事 各種記念日の行事・誕生祭・偉人祭・神社參拜・墓地掃除・クリスマス等は何れも或る意味に於て宗教的陶冶の機會である。自分は特に人生に於て宗教の必要を叫ぶものである。

人間は或る大きな力、偉大なものゝ前にひれ伏すの敬虔の心持と謙虚とを持つならばもつと精神に燃ゆる力が出るし高慢でなくなるであらう。職業人としても亦かゝる陶冶の必要を思ふものである。

## 第八章 職業指導 其の二

——特に職業指導のため施設するもの——

### 第一節 職業指導講話

この章は特に小學校に於て職業指導の爲めに新しく施設する事項に就いて述べる事にする。施設として色々考へられるが職業指導講話は其の中最も大切にして適切なるものである。これは兒童に直接職業について理解せしめ、適職選擇の能を得せしむるために主として教師が職業の意義發生及發達・各種職業の種類・これ等の業態・就職手續及就職後の心得等につき説話するものである。

兒童が愈學校の門を出で、職業の實戦に當面した時職業理解の範圍が狭く、職業の業態や社會的意義等について知識が足りない時には其の職業選定は全く機會的偶然的ゆきつきばつたりで、識見による適職選定は全く不可能である。これでは個人的に考へても社會的に考へても決して幸福では



あり得ない。故に學校時代に或る程度まで職業の理解と選職能力とを與へやうといふのがこの職業指導講話のねらふところである。

### 一 時期と時間

次に起るは職業指導講話の時期はいつ頃が適切か、而して何時間位必要かといふ事である。時期については兒童の中には尋常科卒業限り直ちに實社會へ出なければならぬ兒童もあるのであるから尋常科の高學年即ち五年及び六年に於てなすが適當であるとも考へられるが、教材内容が稍社會的で相當の常識がないと中々理解がむづかしく、あまり早く社會的に進み過ぎる弊も多少考へられるので先づ高等科に於てなすが至當と考へられる。尋常科限り小學校を止す者即ち直ちに實社會の實務に参加する者もまだ全國ではかなりの數あるにはあるけれども、吾人の理想は高等科皆就學を奨勵して遠からず其の實現を期し、事實上の義務教育八ヶ年を成就すべく努力しなければならぬし又努力して居るわけである。隨て今尋常科限り學校を退學するは變態におかれて居る者と考へてもよいので、これ等のために特に講話をおくことはどうかと思ふ。即ち職業指導講話の時期は高等科を適當とする。

次に講話の時間の問題であるが、全體に於て五時間や十時間では大して有効とも考へられない。少くも三四十時間位必要である。充分を云へば高等一二年通じて毎週一時間計八十時間位もあればよいと考へられる。しかしこれには次の二三の考へねばならぬ豫件がある。第一には現行の教育制度に於てこれ程多數の時間がとり出されるかといふ事と、第二には教師がこれ程の多くの時間を有効に教育するだけの教材が有るか、専門家を置くわけでなく、受持教師の誰もが講話が出来なければならぬが、それで果して有効に實施され得るかといふ問題である。殊に教育の事は一時的線香花火的思ひ付きで熱がなくなると其の施設が厄介視される様な事になつてはならない。永續性のあるしかも有効な施設としては如何あるべきかといふ問題である。これ等の事情を考慮に於て學校に即して案を考へねばならない。自分は全國どの學校としても實施出來て、しかも決して困難といふでなく、有効なものとして、高一高二各十五時間計三十時間を適當と考へて居る。これは實地に我が附屬小學校に於て實施した結果からの歸結でもある。都市などの特殊の事情にあるものを除き三十時間位が適當であらう。

さて高一高二各十五時間とるとして、どの時間より割くか、どの學期に配當するかといふ問題がある。高等科としては實業より割くか、國語より割くか、修身より割くか、或は全然特設するか等

の案が立つ。大體他の教科に侵入するは其の課としては許されない事であり、正課時間外にとるも本當は許されない事である。しかしかく考へたでは到底時間を設ける事は出来ない、實業からとるか修身からとるか特設するかが最も易い様に考へられる。

修身には高一に職業といふ課もあり、高二にも習業・公益世務 等職業と深い關聯をもつ材料もある。修身からとるが適當でないかと思はれる。自分のところでは修身科からとる事にして實施して居る。時期は各學年共第二學期が適當である。第一學期はすべてが基礎的訓練の時期で不適當と思はれる。而して第三學期は遅きに過ぎる憾がある。殊に高二の第三學期となるともう適職指導の時期及び職業紹介の時期となり、各自多少の心當りがある時で講話がかへつて本人を迷はす結果とさへなるからである。

## 二 方法と内容

指導講話は職業選定に必要な識見を養ふためのもので其の内容は大體次の様なものである。

- 一 職業の意義
- 二 職業の發達・沿革及び將來

## 三 職業の種類と分化

### 四 主要職業の業態

### 五 自己の性能環境等の反省

### 六 職業選定の條件及び方法

### 七 職業紹介の意義と方法

### 八 就職心得及び就職後の心得

即ち職業の如何なる性質のものか、職業を選定するについて考慮しなければならぬ事項及び就職の心得と就職後の心掛等について確固たる識見を養成しやうといふのが本來の目的である。

教授の方法は大體説話になる。將來この講話がどこにも行はれる事になれば職業指導教科書が出来るであらうし、又出来るがよい。今も職業指導協會編纂の職業讀本が出来てゐる。これ等を使用するのも亦一法である。若し教科書風のものを使用しないとすれば時々適當の資料を謄寫して與へ以て之れにつきて説明するがよい。例へば職業分類表・特殊職業の業態分析表・百貨店の組織表・郷土の職業統計・身體狀況と不適職業表・履歷書及び身元保證書類書式等これである。

講話者は大體高等科の受持教師が適當であるが、或は特に専門的に研究して居る人があれば、專

科の様な方法によりて其の係の人に講話して貰ふといふ方法もあり、若干時間は學校長に於て講話するも方法である。特殊の職業々態の講話となると一人の教師で多くの職業に精通する事は不可能であるから、學校の職員が幾人かの分業として或一人は大工と左官と印刷業との講話をし、他の一人は呉服屋と製靴職と巡査とについて講話し、他の一人は米屋・八百屋・自動車運轉手について講話する等にする事も亦よき一法であると思ふ。勿論兒童に特殊職業の理解をせしむる目的は職業について考へる眼即ち識見を養ふべく、やるのであるからそう多くに及ぼす必要はないし、又事實に於て限られた時間でそう大して出来るものではない。其の地方に比較的多い仕事とか、學校卒業生が比較的多く就いて居るとか、或は代表的模式的なものである等を選定して二三について充分知らしむればよいと思ふ。

三 職業指導講話要目

職業指導講話の内容を今少し具體的に示し、時間配當の状況までわかり易くする爲めには一要目例をとるのが適切と思ふので、著者の立案したもので著者の學校で二ヶ年實施経験したものを示すことにする。これは高一、十三時間、高二、十五時間の配當になつて居る。但し女兒學級用として

は高一高二各六時間の配當になつて居る。

□職業指導講話要目

高等科第一學年(男) 配當十三時間

題 目	教 授 要 項	時 配 當	備 考
一 人生と職業	1 人の一生 2 働く事は人の本分 3 職業と適職 4 職に貴賤なし	一	職業講話の序論に當る、全體の豫定を知らしむ
二 職業の發達	1 職業發達の沿革 2 職業發達の實例 3 職業の將來	一	
三 職業の種類	1 職業の數と分類 2 國勢調査の分類 3 其の分布状態 4 自村及小學校父兄の職業	一	これより七時間は職業の現状を國勢調査の分類によりて細説する (國勢調査職業分類表準備)

七	六	五	四	題目	教授要項	時配 間當	備 考			
公務自由業家事 使用人其他	商業交通業	工業	農業林業水産業 鑛業	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各業の意義分類</li> <li>2 我國の現状及將來</li> <li>3 地方の職業</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 工業の本質分類</li> <li>2 工程實例</li> <li>3 適性</li> <li>4 職業病</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公務自由業の種類</li> <li>2 資格と適性</li> <li>3 家事使用人</li> <li>4 日備</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商業の意義種類</li> <li>2 分掌實例及適性</li> <li>3 交通業の種類將來</li> <li>4 其の適性</li> </ol>	<p>一</p> <p>(百貨店等の分掌表準備)</p>	<p>一</p> <p>(工業工程表準備)</p>	<p>二</p> <p>地方によりて農林水産鑛業の力の入れ方をかへる</p>

八 女子の職業	九 職業選定	一〇 就職後の心得	一一 職業と人生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 女子の職業、其の將來</li> <li>2 實例細説</li> <li>3 小供の職業</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職業選定と個性</li> <li>2 身體狀況と職業</li> <li>3 精神狀況と職業</li> <li>4 境遇學歷志望と職業</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 就職手續</li> <li>2 職業婦人としての心得</li> <li>3 成效實話</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 總復習</li> <li>2 希望職業調査</li> <li>3 結語</li> </ol>	<p>一</p> <p>職業指導講話の總括にあたる</p>
------------	-----------	--------------	-------------	---	--	--	---	-------------------------------

□職業指導講話要目

高等科第二學年(男) 配當十五時間

題 目	教 授 要 項	時配 間當	備 考
一 人生と職業 職業界大勢	1 人と職業、適職 2 職業の沿革 3 職業界の現況 4 職業界の將來	三	本年に於ける講話の序論にあたる
二 地方の職業 家庭の職業	1 地方職業調査 2 家庭職業調査	一	職業理解のため地方及自己家庭の職業の調査をなさしむ
三 職業々態分析	1 職業々態分析の意味 2 業態分析方法 3 實例と實習	二	一二代表職業にて分析の練習
四 職業と収入	1 職業と營業の區別 2 一家の家計 3 職業と収入 4 正業と副業	一	

五 自己の性態	1 自己の性能 2 身體狀況 3 學力氣質性格狀況 4 性能検査器械について	二	性能圖示の作り方を示す
六 職業選定	1 職業選定の條件 2 家職について 2 適性考慮	一	
七 就職手續	1 職業紹介所 2 紹介に要する書類 3 履歴書の書き方 4 適性考査に就て	一	面語口答試問等のうけ方注意、履歴書のかき方等實習を要す
八 職業と修養	1 修養の必要 2 修養の方法 3 修養上の覺悟 4 立志傳實話	一	偉人の實話(立志傳)を挿入して説話を興味あらしむ

題 目	教 授 要 項	時配 間當	備 考
九 就職後の心得	1 一般職業人としての心得 2 同前 3 転職を慎しむ事 4 失職	二	
一〇 人生観	1 人生観 2 先人の教訓	一	職業講話の結論として人生観につきはなして健全なる考へ方をなさしむ

□職業指導講話要目

高等科第一學年女兒用

配當六時間

題 目	教 授 要 項	時配 間當	備 考
一 人生と職業	1 人の一生 2 働く事は人の本分 3 職業と人間の務	一	

二 職業界大勢	1 職業發達沿革 2 職業の數と分類 3 職業の將來	一	國勢調査の分類表につき説明する
三 職業の選定	1 職業選定の條件 2 境遇、希望、個性 3 適職の意味 4 専門職業	二	こゝでは一般の問題として説明する
四 女子の職業	1 女子職業の發展 2 女子職業の種類 3 實例	一	
五 女子の務と職業	1 女子の務 2 女子の本務と職業の關係 3 職業觀	一	

□職業指導講話要目

高等科第二學年女子用 配當六時間

題目	教授要項	配當時間	備考
一 女子職業界大勢	1 一般職業界の大勢 2 女子職業界の大勢 3 女子職業界の將來	一	
二 女子職業態分析	1 業態分析の意味 2 同實例 3 同實習	二	業態分析の實例は二二騰寫にして説明する
三 正業と副業	1 正業副業の意味 2 女子と副業 3 其の實例 4 職業と収入	一	

四 就職後の心得	1 職業婦人としての心得 2 家職の助手としての心得 3 女子立志傳	一	
五 女子の務	1 女子の本務と職業 2 人生觀	一	

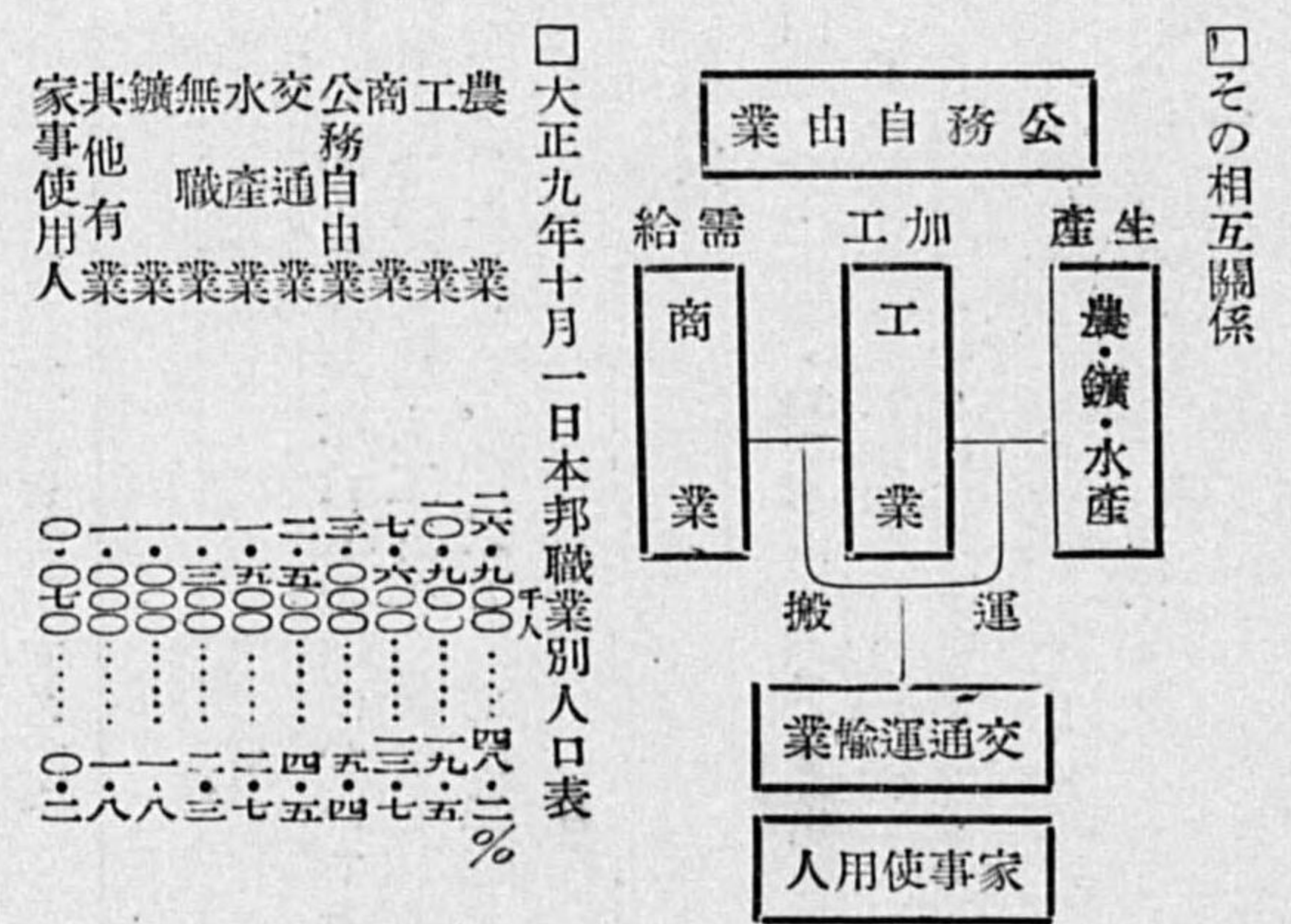
四 職業指導講話細目

次に職業指導講話細目の一二頁分の實例を示すことにする。この例は著者が實地に自己の小學校に於て教授したもので、同時に教授案を兼ねる様に立案したものである。即ち一題目毎に題目・主眼・教授要項・教授資料・連絡・備考の六項をしかも一目に納まる様二頁に納めたものである。教授資料が即ち教材觀や教材研究に當るところであるが少し面積が狭く充分であり得ないのは止むを

得なかつた。今一つ慾を云へば参考書といふ欄があつてこゝを調査し研究するに必要な参考書の索引をつけておけば更に結構だと思つた。實例として高一用第三職業の種類、同第五工業のところを示す事にする。

<p>一 題目 第三 職業の種類</p> <p>二 主眼 文化の進展と共に職業は漸次分化して今や其の種類は萬を以て數ふる程になつて居る、而して職業は前時説明した様に段々變化して來て居る、本時に於ては我が國に於ける職業分類及分布状態の大様を知らしめ次時以下にて細説する職業々態説話への豫備とする。</p>	<p>一 時間</p>
<p>三 教授要項</p> <p>1 職業の分類</p> <p>2 我國々勢調査に於ける分類法</p> <p>3 十大分類に就て</p> <p>4 同前相互關係</p>	<p>五 連絡</p> <p>讀高一 統計</p> <p>地、五、六、高一、産業</p>
<p>四 教授資料</p> <p>□大分類・中分類・小分類（細分類）の區別あり</p> <p>大分類</p> <p>1 農業 陸上より生産</p> <p>2 水産 水中より生産</p> <p>3 工業 土中より生産</p> <p>4 商業 右の原料に加工</p> <p>5 商工 人と人の間の需給を圓滑にする</p> <p>6 交通 公共の運搬</p> <p>7 公務 共同生活の事務を執る</p> <p>8 其他 一家の生活を助ける</p> <p>9 無職 職事使用人</p>	

- 5 職業の分布
- 6 室積町の職業狀況
- 7 附屬小學家庭の職業狀況



六 備考

1 職業が非常に複雑に分化して居る事を國勢調査の分類により知らしむ。



- 2 國勢調査の職業分類表は印刷して兒童に持たすがよい。
- 3 其の學校所在地の職業分布狀況及小學校父兄の職業分布狀況等は大きな圖表にして示すか又は印刷して示すがよい。
- 4 第二回國勢調査の結果が發表されたら之れを利用する事。

一 題目 第五 工業

一時間

二 主眼 工業の特質・種類・現況・將來及び就職適性について大様を理解せしむ。特に我が國の産業界の將來を考へた時更に商工業へと發展せしめなければならぬ。この意味に於て充分徹底せしむべきである。例示としては二三代表的のものを示して大體の概念を養はうと思ふ。

三 教授要項

- 1 工業の本質
- 2 工業の分類
- 3 實例  
イ 機械工作工程

四 教授資料

- 農・林・水産・鑛業等によりて作り出された自然の産物に更に加工して人生生活に一層都合よく役立つやうにする事が工業である。
- 中分類 十五、小分類 百三十一
- 實例 二三  
手工業と器械工業との區別

五連 絡

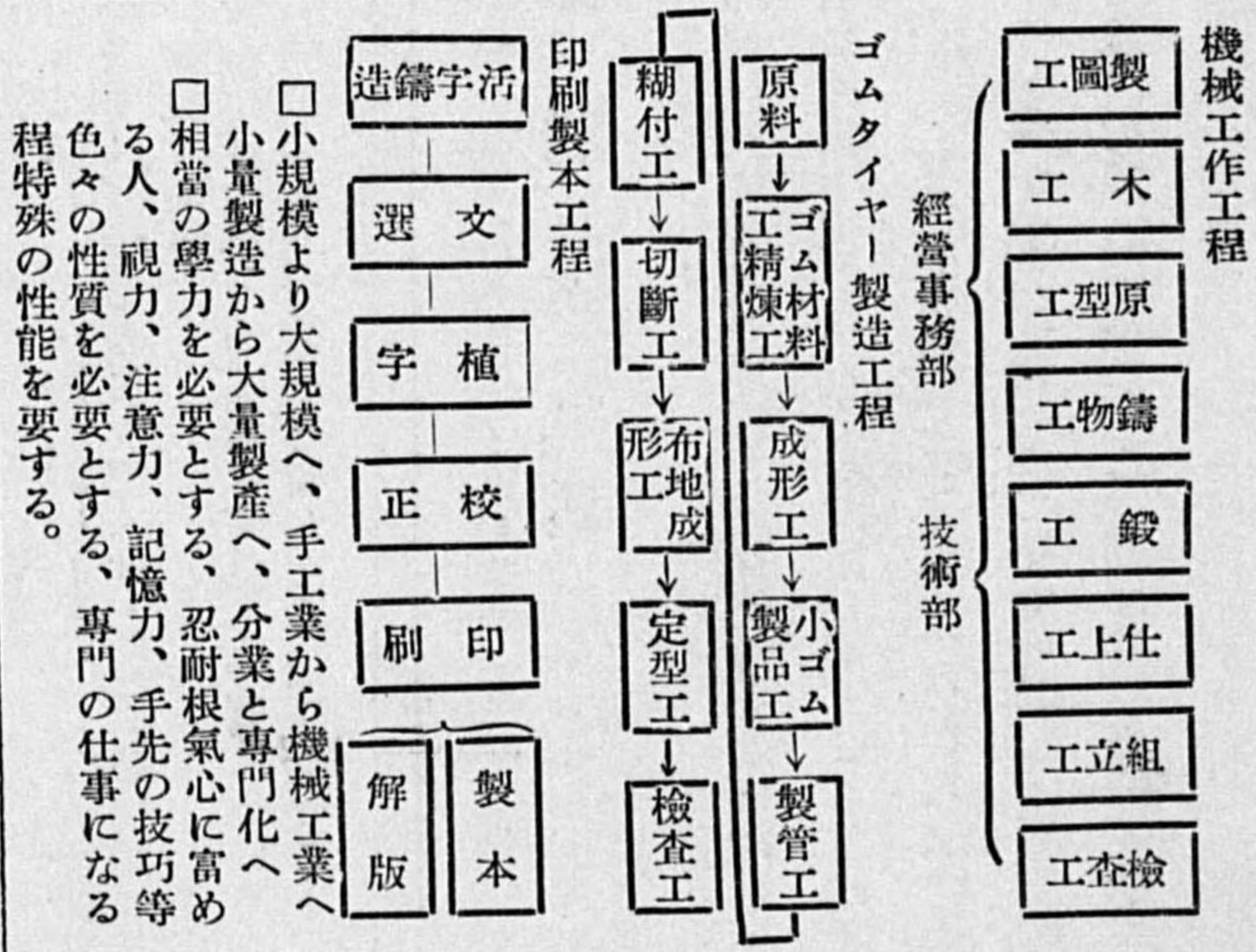
- 讀七 鍛冶屋
- 讀九 石安工場
- 讀十一 ガラス工場
- 讀高一 西洋紙の製法
- 讀高二 田舎と都會

- 化學製品製作工程
- 印刷製本工程
- 大工、左官等

4 將來

5 適性

6 職業病に就て



□ 小規模より大規模へ、手工業から機械工業へ  
 □ 小量製造から大量生産へ、分業と専門化へ  
 □ 相當の學力を必要とする、忍耐根氣心に富める人、視力、注意力、記憶力、手先の技巧等色々の性質を必要とする、専門の仕事になる程特殊の性能を要する。

讀八 分業  
讀十一 ゴム

理高二 燐

(其他の中毒)

## 六備考

- 1 工業の工程は大きく書きて示し（又は謄寫刷にして）以て充分説明するを要す。
- 2 工場參觀等の機會と連絡すれば好都合なり例へばこの説話につゞきて近所の印刷所を參觀をなす等は最もよい施設である。
- 3 大規模の工場による大量生産へ移りつゝある所以と特質について知らしむ。
- 4 隨て工程が部分的専門的になり、特技を必要とする様に進むこと、自然職業病等が増して來る所以を知らしむ。

## 第二節 職業講話

前節の職業指導講話は教師が兒童に職業の理解と選擇能力とを目標して行ふもので、小學校に於ける職業指導の中の最も大切な施設事項となるものである。ところで職業について充分の理解を與へるため、又職業戦線に於て働く場合の心得常識を得させるために、又成效談や苦心談によりて發奮せしむるために、其の地方で今何等かの職に携はりて相當成效した者や、或は今名なり功遂げて退隱して居るが嘗ては職業戦線に於て大に働きし人、或は其の學校の卒業生で今何かの職にあり相當成效して居る者などを迎へて比較的高學年の兒童に講話を聞かしめるといふ事も亦頗る有効有益

な方法である。これ亦職業指導講話の一である。本書に於ては教師がなす講話とこの地方有志にして貰ふ講話とを區別して、前者を職業指導講話といひ、後者を職業講話といふ事にしてゐる。

**講話者** 職業講話をなすについては何といつても其の人を得なければ充分の効果を擧げる事は出來ない。唯職業戦線に於て成效したといふだけで適任といふ事は出來ない。學校が兒童に教室である目的のもとに講話をさせるからには責任を負はねばならぬ。唯のいたづら事であつてはならぬ。大體次の要件を具備するを要する。

- 一 人格の高潔な人でなければならぬ。
- 二 相當の學識あり、常識あり、物事に對して明晰の識見を有する人でなければならぬ。
- 三 其の職業に於ては實際の實務に就き相當の經驗を積み居る人たる事。
- 四 學校にてなす職業指導の主旨の大體を理解して居る事（少くも主旨を理解して呉れる人）。
- 五 談話の一通り出來る人であるべき事。
- 六 犠牲的奉仕的献身的の人でありたき事、講話の報酬を豫期する様な人ではならない。
- 七 兎に角學校として信用の置ける人たる事。

**豫定案** 矢張り大體の豫定案を必要とする。ところで前述の通り其の人を得る事があまり容易で

はないから、非常に多くを望む事は出来ないし、學校の授業其他行事とも考へ合はして先づ年間三回乃至五回位を適當普通と考へる。高等一年の時五回開き高等二年の時五回開くとすれば計十回開くから多い位である。次に豫定表の一例を示す。

豫定月	講 話 題 材	時	講 話 者 職 氏 名	備 考
四 月	逓信事務の大様と従業員の種類、業務待遇等	二	郵便局長 某氏	
六 月	罐詰事業の業態大様と其の従業員に就て	二	某罐詰工場技師 某氏	
九 月	産業組合の事業の大様	一	産業組合理事 某氏	
十一月	百貨店の事業と其將來、従業員の適性待遇採用法	二	某百貨店専務 某氏	
一 月	航海業と従業員の適性	二	前〇〇丸船長 某氏	

豫定月	講 話 題 材	時	講 話 者 職 氏 名	備 考
五 月	警察事務の大様。警官の適性	二	警察署長	
七 月	印刷製本業と其の従業員の適性及待遇將來について	二	某印刷所主 某氏	
九 月	司法事務の大様	一	休職判事 某氏	
十二月	陸軍々人の生活	一	退役少佐 某氏	
二 月	遠洋漁業の方法と其の従業員の適性について	二	前トロール船長 某氏	

以上は奇數年と偶數年と二個の案であるが、こんなものは中々ずつと前に立てた案がうまく勵行されるものでない。色々の故障が出來たり、反對に好都合の講話者を得たりする。臨機に變更する形式のものでなければならぬ。ほんの一例を示したに過ぎない。尙適當と思ふものを二三擧げて見

よす。

製菓事業の大様と將來及従業員——製菓會社々長。

紡績事業と女工に就て——紡績會社技師。

新聞事業の社會的意義——新聞社專務。

副業のはなし——縣農會技師。

看護婦養成と適性に就て——看護婦養成所主任。

鐵道従業員の種類と適性——某驛々長。

布哇に居る我が同胞——近頃歸國した人。

ブラジル移民のはなし——移民協會理事。

寫真師と適性——寫真館主。

右豫定案は極一例であるが、同時に職業講話の内容は大凡そどんなものかといふ事をも示したつもりである。大體はこんなものだと思はれる。

#### 實施方法

(一) 會場 高等科男女(或は尋六も合併)を容れべき教室が無いとすれば講堂でも止むを得ない

が、大體は教室にして講義式がよい。講堂ではどうしても講演式になりパツとして上りの感があるものである。聞く方もしんみりと考へながら聞く事が出来悪いから出来る限り普通教室がよいと思はれる。

(二) 時間 一回は先づ一時間或は二時間とし、それ以上は必ず避けねばならぬ。それ以上となれば兒童は疲勞するし教育的に考へても有効でない。大體は一時間がよいけれども職業の大様から従業員の適性や待遇將來等まで講話して貰ふとなれば最少限度二時間は入用であらう。

(三) 方法 方法にも色々注意が入りやうである。矢張り外の教授と同様に兒童心理を考慮して、出来る限り直觀的・具體的に兒童化し心理化し興味化し郷土化してやつて貰ふべきである。例へば軍人に來て貰ふ場合には軍服の姿で其の上勳章も佩用して貰ふとか、製造工場主に來て貰ふ場合には製品見本や製造工程を示す實物を携帯していたゞき陳列して見せるとか、航海業のはなしの時、海外の珍奇な風景畫や寫真や物産等の携帯を乞ふ如き、少し工夫し骨折ればよほど有効に教育的に導き得るから、こんなところへも特殊の注意を拂ふべきである。

(四) 謝禮 學校として謝禮をするの費用があるものではないから謝禮なしで頼まねばならぬ。若し多少そんな豫算のとれる所では風呂敷でも作りおき紀念に贈呈する位がよからう。勿論控室での

茶菓や往復の車代位はどうかして出さねばならぬものである。

(五) 整理 毎回の講話の大様を教師が筆記して置き、之を纏めて製本し(勿論印刷にする意味ではない謄寫刷で結構である)。各學級へ配布して學級文庫へ備付けるか、學校の文庫へ備付けるかする位の事はなさねばならぬ。或は兒童に所感を記述せしむる等も有効な施設である。

### 第三節 讀物による職業指導

書籍・各種のパンフレット・雑誌・新聞・圖表等の備付けと、これが讀書指導とによつて、自然の裡に職業の理解興味及び之れが心得を得させやうとする施設も亦職業指導的方法の中の大切で有力なものゝ一であると思はれる。尋常五六年高等科の兒童ともなれば讀書力も相當に進み、又讀書に對する興味も相當に進んで居るからこの施設も亦有効である。これには書籍選擇と購入の經費との二大困難が伴ふ。

先づ何といつても選擇をあやまつてはならぬ。ところがこれまで偉人傳や歴史譚、お伽噺や童話童詩の類、地理紀行、理科物語、等は兒童讀物として相當なものが随分澤山出來て居るが、職業の

理解に都合のよいやうなものになるとあまり澤山出版されては居ない。之れはかゝる事に對する關心が比較的新しい爲めと、かゝる事に興味を持つて兒童讀物など作つて呉れる人が無いからである。

選擇が出來たとして之を購入する方法に困るのが普通である。大體學校の文庫に備付けて學級へ借出しの形にするとか、學級文庫へ備付けるとか、或は町村の圖書館へ備付けていたゞき借用して讀ます等の方法をとるがよい。少年讀物にしても中々高價で一時に澤山購入する事はむづかしい。次に私の學校の文庫に備付けてあるもの等を參考にして比較的優良と思ふものを少しばかり紹介しやう。尙この外に良書も澤山有ること勿論である。中には兒童の程度としては高きに過ぎるものも少しはある。

#### □一般修養書

大谷光瑞	帝國の前途	六〇	大乘社
徳富猪一郎	日本帝國の一轉機	一〇〇	民友社
工藤哲郎	東京就職するまで	一五〇	朝香屋書店
坪谷善四郎	智識階級と就職	一三〇	早稻田出版部
杉一郎	金儲實話	一六〇	先進社

増田義一 運命の打開 一、〇〇  
 實業日本社編 赤手 市井奮闘傳 一、二〇  
 佐々木秀一 黒偉人物語 一、五〇

□立 志 傳

横山貞雄 人間大倉喜八郎 二、〇〇  
 橘輝政 野口英世傳 一、三〇  
 有川治助 ジョン・ワナメーカ 一、五〇  
 澤田謙 エヂソン傳 一、三〇  
 實業日本社編 財界巨頭傳 一、五〇  
 河井醉茗 日本立志物語 同  
 岡本瓊二 一世の 後藤新平 一、二〇  
 風雲兒 人々 一、〇〇  
 谷口政秀 人と職業 一、〇〇

□職業 智識

中山文一

蔬菜栽培要訣

一、〇〇

泰文館

石井勇義

新しいバラの作り方

一、五〇

誠文館

明文堂編

養 蠶

一、三〇

同

阪井源次郎

平易に 自動車講話  
といた

一、二〇

泰東閣

石巻良夫

發聲映畫の知識

一、九〇

國際映畫通信社

主婦の友社

電氣の設備と使ひ方

一、六〇

同

栗島春彦

船長になるまで

一、五〇

新時代社

下村宏

新聞常識

一、八〇

日本評論社

阿部嘉藏

本邦人絹工業の將來

二、〇〇

東洋經濟新報社

岡田市治

商業之實務及常識

三、五〇

三松堂

□殖民及海外事情

長倉矯介

最近の濠州及南太平洋

二、八〇

明治圖書株式會社

竹井十郎

日本人の 南 洋  
新發展地

一、〇〇

海外社

上塚司

デンマーク土産

一、〇〇

泰文社

□發明發見物語等

原田三夫

子供の科學文庫

各、〇〇

誠文堂

汽車、汽船、自動車

ラヂオ、電車、映畫

及川久太郎

兒童の電氣學

一、八〇

東洋圖書株式合資會社

同

兒童のラヂオ

一、八〇

同

中野恭一

發明發見物語

三、二〇

目黒書店

柚木卯馬

發明美談

一、三〇

講談社

新聞保郎

科學電氣玩具の作り方

一、五〇

資文堂

本間清人

電氣機關車と電車の作り方

、五〇

誠文堂

誠文堂編

特許の受け方と法律集

、五〇

同上社

科學書報社

科學文明の驚異

一、五〇

同上社

清水正雄

塗料及塗裝法

三、五〇

大倉書店

口雜、常識

赤名精一

米國移民法講話

二、〇〇

博文館

主婦之友社

金満家となる秘訣百ヶ條

、二五

同

朝日新聞社

家庭經濟の改善

、五〇

同

圓地與四松

空力ツエツペリン

一、六〇

先進社

高峰博

職業讀本

一、五〇

教育研究會

武藤三治

實業讀本

日本評論社

前田一

職業婦人物語

東洋經濟出版部

讀賣新聞社

彼と彼女は就職した  
斯うして

一、〇〇

文明社

教師作讀物。以上述べたのは既に出來てゐる書籍について書いたのであるが、更に一步進みて教師が兒童のためにパンフレットを作成して與へる等は更によい方法である。之れは郷土にある特殊の職業の理解を目的としたり、郷土の出身成作者又は其の學校の出身者などの立志傳などを材料として編輯して備付け讀書せしめやうとするやり方である。何處にしても郷土には必ず特殊な産業と立志人物とがあるものである。

(例) ○○硝子製造會社の事業。

○○漁業の仕方

第三節 讀物による職業指導

○栽培と利益。

郷土の人 △△△△翁。

奮闘の人 △△君。

其の他雑誌新聞の類、各種の統計・圖表の類等も備付けて読み方見方の指導をなし以てすべてを彼等の職業的識見への與料となす様なさねばならぬ。

#### 第四節 職業參觀

會社・工場・官公衛・各種の事務所等の參觀によりて、實地の職業に對する理解を深め、職業に對する見識を廣め、選職上の參考にしやうといふのが職業參觀である。百聞一見に如かず、机に凭れて聞かされる幾十回の理窟よりも、實地の場面を見る唯一回の見學が職業理解にどれ程有効有益か知れない。從來とても學校の修學旅行等の場合大抵一ヶ所か二ヶ所かの工場等參觀はしたけれども、考へ方によほど異なるものがあつたと思ふ。從來は工場の見學をする場合、これを珍らしき文明の一機關として驚異の眼をみはつたといふ程度か精々其の製造工程の理科的意義を知るのが目的で

あつた。而して其れの從業員の職業的勞作については深く考察しなかつた。例へば電話交換局を參觀した場合、其の目的が文明の機關としての電話、理科の教材としての電話の原理及び之が實用化して如何なる方法に於て接續されつゝあるかの知識を得るのが目的の總べてで、説明も亦其の程度と範圍とを出ては居なかつた。隨て其の從業員たる交換手の年齢とか適性とか待遇とか將來とか社會的貢獻等については何も知るところなく又知らしめやうともしなかつた。それでは職業といふ眼からは全く見なかつた事になる。又一つの織布工場を參觀したとしても、大きな器械が音たてゝ居たり、大仕掛の織布が瞬く間に出来る文明の器械を驚いて眺めたに過ぎなかつた。而して己れの着用する衣服の地が如何にして出来るかの工程の大様を知つたに過ぎなかつた。そこに働く人が幾人居るか、一日に幾時間いかに働き、報酬はいくら得るか、更に其の適性如何等に就ては殆んど知るところは無かつた。從來は總べて物珍らしきが故に參觀するといふ態度が多かつた。一體修學旅行といへば地理歴史的名勝舊跡見物といった態度が多かつた様に思ふ。お上りさんと選ぶところがない。こゝは源氏の某氏が討死した土地だ、こゝは何々侯の築かれた城跡だ、こゝには昔何々の傳説があるといったもののみ眺めて修學旅行と考へて居た。それも結構しかしこれからのものも少し活きた意義を添加しなければならぬ。もつと生活に近接した實人生實社會をまともに見學する



ものたらしめる必要がある。即ち従來の修學旅行へ主要な任務の一として職業參觀を加ふべきである。

又學校所在地近傍の工場や官公署等は特別の時間を割きて見學して以て職業々態理解に資し、又従業員の任務や適性を知悉せしむべきものである。所謂校外教授として一定の豫定細目によつて施行すべきものである。以下これが方法についても少し説明しやう。

#### 時期と方法

學校所在地に適當の工場や事務所や官公衙等ありて、校外教授の場所として適當の時はなるべく參觀すべく、其の時期は讀方理科等に教材とし、あらわれた前又は後にするが適當である。豫めよく研究して豫定細目を作りおきこれに準じて施行すべきである。例へば學校近傍に大養雞場があれば國語讀本卷九の第四課養雞を學習する前か又は後に於て見學し、學校所在地近傍に新聞社があれば同讀本卷十二の第四課新聞のところを學習する前等に參觀するの類である。しかし適當の教材が無い時には獨立的に系統的に細目に編み入れて之を見學し、萬遺漏なき様にしなければならない。大體職業指導方面の考へも加へて見學する場合は尋五以上でないといふ其の參觀の意味を充分ものにする事が出来ないといふ考へられる。

#### 參觀の方法

(一) 參觀依頼 先づ參觀場所主宛に依頼状を出さねばならぬ。どこにしても多人數の兒童がドヤ／＼と場内を歩きまわつては其の仕事の能率を低下するから嫌ふ傾がある。隨て絶対に參觀許可をしない工場も少くない。しかし中には新聞社やある製造工場、陸海軍の工場等の中には自己宣傳のため、社會教育のため、或は國民に理解を求めめるために參觀を歓迎する向きも随分ある。かゝる所では色々の刷物やエハガキ等を用意して配布したりする。兎に角豫め依頼しなければならぬ事はどこにしても必要であり、其の依頼狀發送は大體一週間位前に出すべきである。それは差支其他で拒絕される事もあるし、參觀許可書の届く日取りを見込まねばならぬからである。依頼狀案文一例

陽春の候益々御多祥の御事と存じます。さて理科的工業的智識養成及び職業常識養成のため私方高等科二年生男女貴工場を參觀見學させていたゞき度く存じます。毎年の事で御迷惑と存じますが御許可下さいませ様御願ひ申上ます。

參觀兒童 高等科男女六十人 引率者二人。

時 日 五月十日午前十時より十二時まで

御差支あれば同封のハガキにて其の旨御一報煩し度くと存じます。

月 日

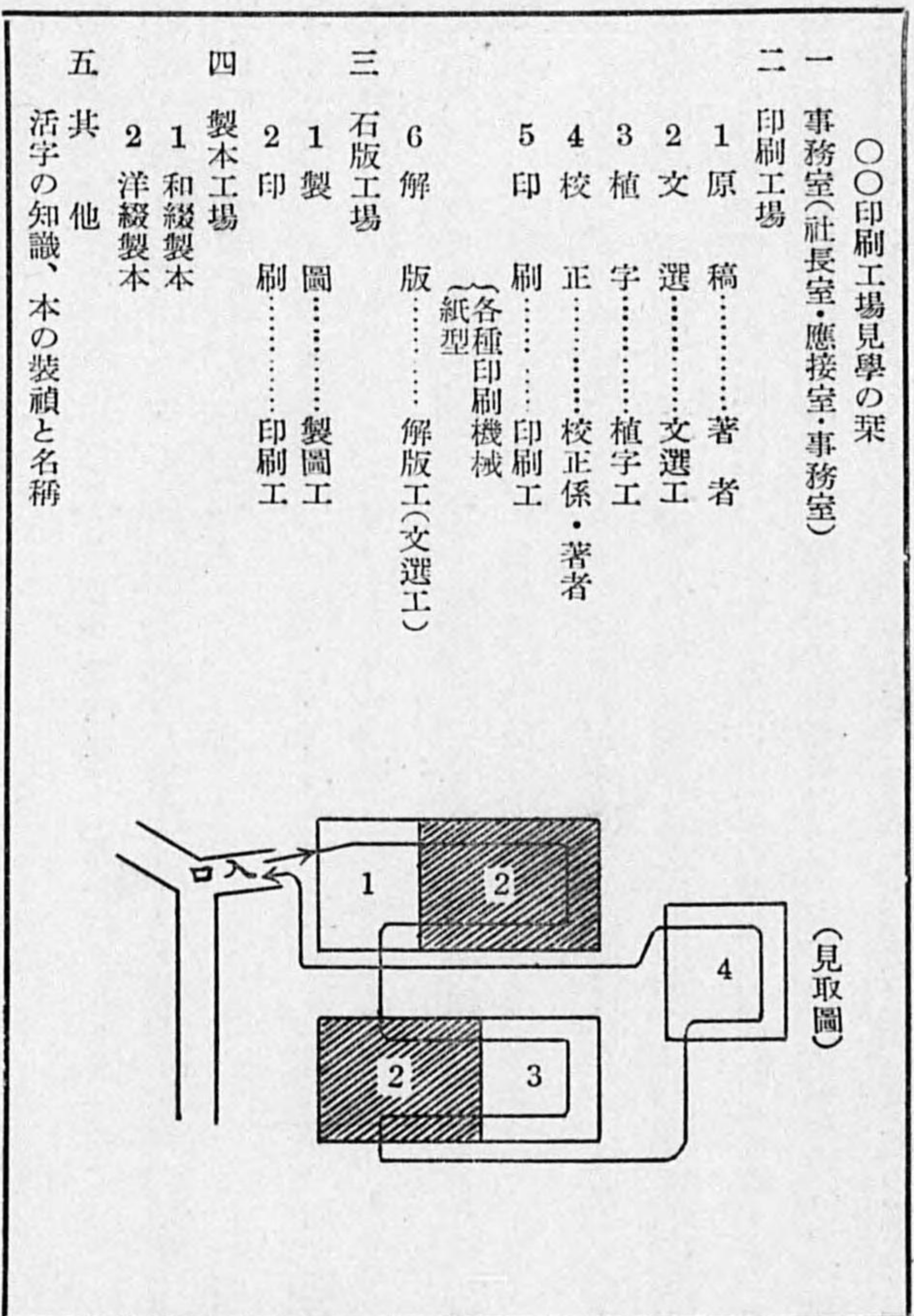
□□小學校長何 某印

某工場御中

學校所在地近くの場合、わざわざ出掛けて面談により參觀許可を求むる場合、或は電話で許可を求むる場合等ある事も勿論である。但し大體は文書によるがよい。それは口上や電話はよくゆき違ひを生ずるからである。

(一) 參觀前指導 參觀を有効にし有益にする爲めには參觀の意味と其の理解とを十分にせしむるために參觀前指導が極めて大切である。參觀前指導には二通りの意味がある。一はいふまでもなく參觀の目的・參觀の場所・參觀の順序・其の内容・特に注意すべき要點等を大略明かにすることであり、一は參觀に伴ふ各種の注意訓練である。參觀は豫め其の内容を概観して大體の意義を知悉して居ないとよくわからない場合が多く、すべて見るのは部分部分を見るために全體を理解する事が出来ない。又職業指導が見學方面はうっかりすると忘れて通るといつた事が多い。方法としては參觀内容を説明した謄寫刷を與へるとか、大きく圖解したものを示してよく理解せしむるがよい。それが爲めには理想を云へば教師は先づ豫め其の工場を參觀して充分理解して居るがよい事は勿論である。兒童に配布する刷物一例を示せば

印刷工場を參觀見學するとして



## 參觀注意（説話要項）

- 一 引率者及び説明者の指揮命令をよく守り、説明はよく聞かねばなりません。
  - 二 説明者には説明を求めたり、疑問を質したりしても宜しいが、作業中の人に質問したり、談し掛けたりしてはなりません。
  - 三 いつも一團となり、行進は列を作りて早くし、いつまでも一所に止つたり、列を離れて外へ迷ひ込んではいけません。
  - 四 どんな事があつても機械や製品へ手を觸れてはなりません。機械に觸れると危険な事が少くありません。
  - 五 静肅に規律よくすべてに氣をつけて工場さまたげにならぬ様にしなければなりません。
- (三) 參觀についての心得 工場へ着くと先づ引率者來意を告げ名刺及び參觀許可證又は紹介狀等を提出して待つ。控所又は應接室にて工場一覽或は工程の榮等の印刷物を配布する。説明者より豫め大體の工場の模様の説明を聞く。參觀及び説明聴取の便宜のために兒童を幾つかの分團に分つ。一團二十人位が最も都合がよい。時間について大體の豫定を申込みて説明參觀の程度に加減をして貰ふ。若し工場内にて晝食などする豫定の時は豫め申込みて湯茶について頼み置く。説明が理科的

工業的に終始するかも知れないので、従業員の人數、適齡、適性、待遇、一日の勞務時間、休養、娛樂の方法等についてもざつと質問し説明を求め置く。かくて愈參觀する。

愈全部終了した時は引率者は團體を代表して禮を述べる。歸校後學校長より工場主へ宛て、參觀の禮を出すのが禮儀である。

(四) 參觀後整理 參觀前の指導を教授に於ける豫備とすれば實地の參觀見學が教授に當り、參觀後の整理が教授に於ける整理に當る、随つて參觀見學後の整理指導は極めて大切である。兎角あとは其のまゝになり勝ちであるがそれでは參觀の目的を完成する事が出来ない。

多くの事が左様であるが、前指導と實地の見學とは多少事實の違ふと思ふ様な事もある。こんな事は後の整理に於て或る程度まで訂正しておかねばならぬ。又其の參觀した一工場は其の種の工場の見本の一つではあるが、どれをも代表し得るものではないから、それを基として一般の其の種の工場の概念に導かねばならない。

(五) 職業參觀豫定細目 學校としては參觀見學の豫定を立てた細目を必要とする。其の様式一例と我が附屬小學校の參觀場所とを擧げて参考にしよう。

## 職業參觀細目一例

參觀場所	時期(時間)	參觀目的及要項	連絡	備考
一 郵便局	尋五 六月上旬	郵便事務 電信事務 電話事務 貯金事務 為替事務 簡易保険事務 同従業員について	算術 尋六 歩合算	
二 トロール船及 魚市場	高二 下關市へ修 學旅行の時 (五月上旬)	トロール漁業の方法 トロール船の構造 漁業區域と禁漁區 漁獲物種類 一回一往復の日數 收益狀況 従業員の数・待遇 魚市場の實況 魚類保存・販路	國讀高一 我國の水産業 同 二 汽船トロール漁業 同 三 罐詰 地理 産業	

參觀場所實例

(一) 校外教授場所

- 町役場
- 郵便局
- 警察署
- 産業組合事務所
- 銀行支店
- 印刷所工場
- 魚市場

(二) 修學旅行に於ける參觀場所

- 1 下松町——尋三
  - 食卓鹽製造工場
  - 日立機關車工場
- 2 徳山町——尋四
  - 海軍燃料廠
  - 商業一般
- 3 岩國町——尋五
  - 義濟堂織布會社
  - 人造絹絲工場
- 4 山口市——尋六
  - 防長新聞社
  - 兵營
  - 商品陳列館(高等商業學校)
- 5 吳市・廣島市・嚴島町——高二(隔年)
  - 吳海軍工廠
  - 煙草專賣局工場
  - 汽船内の生活と宇品港

○ 嚴島物産販賣狀況

6 下關市・門司市・小倉市——高一一(隔年)

○ 關門日々新聞社

○ 測候所

○ 山陽ホテル

○ 電話交換局

その他、製氷會社・瓦斯會社・米穀取引所・トロール船及魚市場・麥酒會社・製糖會社・關釜連絡船等。

### 第五節 職業參加

職業參加といひ或は職業實習といふ。一定の期間或る職業に實地に參加し手傳はしめ以て其の職業の性質を理解し、又職業精神に觸れて以て將來選職の參考にしようとする施設で近時ポツ／＼熱心なる各地の小學校に於て行はれて居る。廣義にいつてこの方法に三種ある。一は自己家庭の職業に參加し手傳ふもの、一は或る特殊の職業をある特殊の時間に於て副業の如くやるもの、毎日放課後牛乳配達を手傳ふとか、毎朝新聞の配達をなすとかいふ如きもの、而して第三のものは特に夏季

冬季等の長期休業を利用して工場とか郵便局とかの如きところへ入り込みて職業に參加し實地練習をなし以て其の職業を理解しようとする方法である。ところで廣義には右述べた様に三様の態度があるが、普通に云ふ職業參加はこの第三のものである。即ち長期休暇を利用して或る職業に實地參加して實習するの謂である。これもうまくいけば相當効果多き施設たるを失はない。先づ其の方法順序を書くことにする。

#### 一 職業參加希望兒童募集

大體學校として方案を立て、職業參加希望兒童を募集する。其の際兒童は其の希望職業を第一第二第三と順位をつけて申し出る。尙其の時父兄保護者の承諾を得て居るべきは勿論である。學校としては成るべく多くの兒童に參加實習をせしむべきがよいけれども中々うまくゆかぬものであるから量より質を選ぶべきである。

#### 二 商店工場へ依頼狀發送

右の兒童の希望を纏めて見て大凡その商店工場を見定め、職業參加の主旨を認め、職業見習ひのため實習せしめ教育して呉れる様依頼狀を發送する。——或は職業紹介所より依頼して貰ふも亦一法である。

## 依頼状案文

拜啓時下酷暑の候益々御清祥の御事と存じます。

さて時代の趨勢につれまして學校で兒童に職業に就て充分の理解を與へ又職業精神を陶冶し以て彼等が自己の職業を決定するの能を養はねばならぬといふ事が叫ばれる様になりました。私の學校でも職業指導科を置きまして色々兒童に指導をして居るのであります。ところで兒童の中にはこの夏の長期休業を利用して商店工場等へ頼み、實地に其の家の仕事を實習してより深く其の精神を得たいと希望する者が御座います。随分御迷惑と存じますが社會的奉仕と御考へ下さつて右兒童を一人又は二人暫く御使ひ下さる事は出来すまいか。左記條件に於て是非御願ひ申上たいと存じます。

- 一 期間は七月二十一日より八月二十一日までのうち御都合で——但し十日以下に下らぬ事
- 二 住み込みにて食事持ちの事
- 三 何等の名義に於ても一切報酬は與へない事
- 四 貴店の主要な職業をざつと教へて下さる事

月 日

## 三 商店工場へ紹介

愈商店工場から参加許可が来たとすれば其の適當の兒童を紹介する。紹介状を持つて本人を遣し主人に面會をさせる。近くの時は受持教師が連れてゆきよく頼む、これに越した事はない。

## 依頼状案文

前略 兼て御依頼申上げてあります職業参加の兒童を御紹介申上ます。當方高等科二年生で×村字××木村孫一の二男木村小一と申すものであります。將來貴店の様な職業につき度き希望を持つて居ります。御迷惑ながら充分御指導願ひ申上ます 早々。

月 日

## 四 教師の訪問指導

参加中一回若しくは二回受持教師は其の商店を訪問し、兒童に接して一は奨励し一は指導し、一は店主への禮を兼ねてゆぐがよい。若し途中で歸つたり、不都合の事があつたりすれば是非教師が店主を訪ひて事情を質しお詫びをなすべきである。勿論學校所在地がこの参加の店舗とひどく距り居ればすべて文書による外ない。

## 五 實習終了後の所置指導

教師は一人一人單獨に面會して實習所感を聞き、更に指導を加へて経験を有益に導き整理する。参加者全部の所感や意見の會を開くも方法である。或は學級内にて所感談話會等開くもよい事である。又所感文を作らして保存するも亦參考になる。

大體の方法は右の順序と方法とにより萬遺漏なきを期せねばならないが、この施設は中々厄介でもあり、種々考慮すべき問題を含むもので十二分の注意のもとに施行しなければならぬ。第一兒童は何を基にして参加希望の職業を決定するかと問題である。一度實習すると自然其の職にいくらかの愛着を感じる様になり一生の方針として選定する様にならう。隨て初めの希望決定に十二分の警戒が加へられねばならぬ。又學校が兒童を職業線上に送りて尙其の責任を負ふには少し周到な計劃がなければならぬ。そこ等に考慮すべきものがある。更に兒童は家庭に於て大抵一つの職業に参加すべき機會を持つて居る。それをさきて他人の職に参加する必要がどこにあるか。家庭の職業にまじめに参加實習する指導の方がはるかに有効ではないかといふ問題もある。

職業の中には十日や二十日では大抵はまだ其の本質には觸れさす事がむづかしいものが多い。隨て十日か二十日かの實習で其の職業を批判したり評價したりする様な事になつてはかへつて危険とも考へられる。群盲の象の譏を如何ともする事は出來ない。あれやこれやを考へた時この職業参加

は矢鱈にすゝめてやるべきものではない。學校が都市近郊にあり比較的かゝる事に便益があり、充分の計劃と熱心な指導者とを得たとき初めて實施すべきものである。

## 第六節 職業調査

職業調査といふのは兒童をして自己の家庭の職業や自己の部落や市町村等の主職業や副業等の調査をせしむるとか、或はある職業の業態性能等の分析研究をなさしむるとか、或は又其の學校の卒業生の就職状況の調査をなさしむる等の方法によつて一層職業に對する關心と理解とを深からしめようとするものである。この事は兼て職業に關する諸種の材料を得て指導の體系を立つる際の資料ともしようとの計劃に屬するものである。大體に於ては分類調査と業態分析調査とに分けられる。施行の學年は矢張り相當高學年でなければ到底むづかしい。

### 一分類調査

家庭の主職業及び副職業調査の目的でなすもの。次のカード用紙による。(これは尋常四年位より行ふ事が出来る。下欄の小中大分類は教師が記入するものである)。





## 四 三以上の副業あるもの

の統計もとる。又郷土市町村の職業調査もなし置かねばならぬ。

## 二 職業々態調査

これはある職業の業態を兒童に調査研究せしむるもので、これによつて職業を見る眼識を高め、着眼の方向を指導しようといふ企てであつて課題式の方法により行ふものである。これは職業指導講話の時職業の業態を幾つかに分析して談してきかせ、其の後の課題に出すものである。随分厄介で面倒な作業で著者が高等一二年兒童に試みた結果から云へば大したたい、成績は擧げ得ない様である。しかし眞面目に職業研究をした兒童には少からぬ利益があつたと認められた。大體調査せしむべき要項は次の如きものである。(これは次の章の職業研究の部参照)

## 一 職業名と分類

二 職業目的。何をするのか、何を造るのか

三 業態。どんな事をするのか

四 作業條件

働く時間(何時頃から何時頃まで)

休養日(一ヶ月何日か何日と何日)

働く人——教育程度、資格、身體的か精神的か

五 利益報酬収入及び資本

六 時代との關係其の仕事の將來

右要項を謄寫して與へて記入せしむる様になす。一人一職としそれは自己の家庭の職業、親族の職業或は近隣の職業等選ばすがよい。これは兒童が職業業態調査をするだけが主目的であるが提出した票は纏めて次の講話の参考となすべきである。

## 三 卒業生就職状況調査

これは必ずしも兒童に調査をなさしむるといふ意味ではない。職業指導の體系を立つる上からは是非この調査は行はれて居なければならぬし又卒業後就職者の指導のためには是非なくてはならぬ材料である。學校を卒業したものが卒業後如何なる方向へ而して如何なる職業戦線へ流れゆくかは次の兒童指導の一大羅針盤でなければならぬ。大部分村に留りて農に従ふか、多く都市へ出て商業見習ひになるか、或は工場入りをするか、又は遠く郷里を離れて働くかによりて後の兒童へ特別の注意と指導を與へなければならぬ。少くも五年位は卒業した者の消息が完全にわかつて欲しいし、臺



(イ) 児童の知れる職業名を書かすこと。(某校の調査によると五年六年位の児童で平均六十乃至七十位。高等科となりて平均八十位であつたといふ。最も少きは十以下で多きは百八十位書くといふ事である。)

(ロ) 世の中で最も良いと思ふ職業を書かすこと。(某校の調査によると軍人・官吏・農業・大工・會社員・銀行員・教員・大臣・政治家(男)。教員・農業・裁縫・呉服店・醫者・米屋(女)等が多かつたといふ)。

(ハ) 世の中で一番つまらないと思ふ職業を書かすこと。(某校の調べでは土方・車夫・ごみとり・農夫・高利貸・仲仕・藝者(男)。藝者・車夫・女給・泥棒・女中・乞食(女)等であつたといふ)。

### 第七節 職業志望調査

職業志望調査といふは其の文字の示す如く、児童に將來何になりたいか、何を志望するかを聞き一定の用紙に記入せしめて之を整理し以て参考にし、指導の場合に考慮しやうとするもので、主目的は児童をして職業意識に目覺めしめやうとするものである。誰にしても自分は將來何にならうか

と考へる時當然色々の職業を思ひ浮べるし、更に其のよし悪しを比較考察するに違ひない。そこに志望調査は意義を見出すものである。隨て比較的下學年より之をなさしめ得るけれども先づ尋常四年或は五年位から課すがよいと思はれる。勿論初めの程は其の志望たるや全く夢の如く全く空漠たるもので、自己に可能か否か、又其の仕事がどんな業態を持つか、利益のあるものか、社會的の意義貢献なども全くわからないまゝのものである。それが五年となり六年となり、更に高等一年と進んで漸く現實性を濃厚に持つ様になるものである。大體は毎年一回第一學期に於て之を行ひ、一定の様式ある帳簿に整理して各人の志望の發展を一目し得る様にするがよい。大體志望にはあまり指導や干渉を加へないがよいけれども、相當學年が進みても尙あまりに空想を描く者には若干の指導を加へるが親切であらう。

其の調査記入する様式左の如し。

#### □ 職業志望調査簿



に近い希望であつてはならない。

教師所見	進希望		調査月日	昭和	年	月	日
	第一希望	第二希望					
	将来の職業希望		2	1			

### 第八節 職業指導諸施設

以上列挙した七種の方法は何れも小學校の職業指導として特に課すとしては優秀な施設たるを失はない。特に職業指導講話・職業參觀・職業志望調査等は缺く事の出来ない事で讀物による指導や校外の職業實線の人による職業講話等も亦是非加ふべきである。學校々々其の事情により出来るだ

け各種のものを確かなプランの下に課すべきである。尙これ等の外に多少間接的であるが次の諸施設が行はるれば結構である。

- (一) 職業指導室の設置。(第十四章参照)
- (二) 職業人として必要な特殊な技術練習

學校教育以外の特技で練習して置いて都合のよいものが少くない。これ等は時間外或は實業の時間に若干宛指導すると思ふ。

- イ 電話のかけ方教授練習
- ロ 自轉車の乗り方練習
- ハ 算盤計算の練習
- ニ 初步英語の稽古
- ホ 商業簿記の一般について
- ヘ 謄寫印刷法の練習
- ト 禮儀作法の特別の實習
- チ 毛筆練習

リ 商用文の練習

右の中算盤・初歩英語・商業簿記・毛筆等は小學校で一通り學ぶことも出来るが、どうも不徹底で實用とならない。矢張り時間外にでもやるがよい。

(三) 特殊の施設

- イ 購買部による商業實習。學校内の兒童相手の購買部を作りて商業實習をなすもの
- ロ 農作物販賣行商實習
- ハ 職業指導展覽會の開催。各種の資料を陳列して以て職業指導教育に資し、又保護者の指導に資す

## 第九章 適職指導

### 第一節 適職指導の意義と困難

人各々其の面貌の異なる如く、其の心も異り、身體も智能も氣質も性格も境遇事情も皆異なるもので全然等しいものは唯の一人もない。一方職業を見るに牧畜や農業等比較的原始時代よりある學業はそうでもないが、専門化した工業や機械力による交通業の如き比較的新しく出來た職業は非常に特殊の性能を要する様になつて居る。隨て人には比較的よく適する職業と、比較的適しない職業とがある事が考へられる。そこに適職不適職の意味があり、適職指導の意味がある。即ち人の天賦の能や修養や性格・環境等にびつたり會ふ職業を發見し、それに就かして一は本人の一生を幸福ならしめ、一は社會的に考へて總べての事業分擔を最も功率的ならしめ以て人と社會との幸福と繁榮とを期待しての社會的教育的の施設が即ち適職指導である。

限られた國土に限りなき人口の増殖があり、文化の進歩と共に人の文化的享樂的要求は漸次増して、段々と經濟的の壓迫を感じる様になる。そうなると自然界からとれる物的資源には十二分の研究が行はれる様になる。人智は更に慾望の向ふまゝに色々の研究にと向ふ。こゝに人的資源の考へが入るのは當然である。人間の働き振り、所謂能率を十二分に發揮させやうと考へるのは當然の成行きである。教育界産業界に適職の考へがおこるのはまことに由ありといふべきである。職業指導につきても深き見識ある有名なる實業家藤原銀次郎氏は其の論文産業上から見た職業指導の中に於て「前略」私は日本が天然の資源に乏しい事を憂へない。而して日本の人口が毎年非常な勢で増殖してゐるといふ事に到つては憂ふる處か、却つて大いに慶賀したいと思つて居るのである。たゞ私の憂ふる處は日本の教育制度が不完全であつて、徒らに高尚なる學問を教へる事に汲々として、今日の時世に役に立たぬ様な人間を養成したり、又徒らに働かずして、高い報酬を得ようとする様な間違つた分配主義を唱へる様な人物を造つたり、或ひは政治上、或は社會上などに於て甚だ憂ふべき事が澤山あることである。私はかうした憂ひを一日も早く排除して、職工・技術家・經營者は無論の事、天下の人々が擧つて一にも働き、二にも働く様な人となり、各々の技能を發達させて、もつて世界の産業界に立つて、優秀なる地歩を占める様心掛けて貰ひたいと切望してやまないものであ

る。』これは教育方法に對する警告や社會問題に對する警告も含んで居るが要するに年々増殖する人々が各自の本分を盡して専心働き以て産業興隆のために盡すべきことを示されたものである。直接には適職指導に言及されては居ないが間接には其の意味極めて濃厚である。

さて然らば小學校に於ける適職指導は如何になすのか、又それは容易な事かといふ問題になる。そこになると吾人は非常に煩悶をせざるを得ない。これは適職指導は非常に困難な事、否殆んど不可能とも考へられる事であるからである。この事に就て以下に少し書く事にする。

### 人と職業とを結ぶ二つの態度

人と職業とを結ぶのに二つの態度がある。一は職業が人を選ぶのであり、一は人が職業を選ぶのである。前者は一定の職業がそれに合ふ人を求めるので、工場が職工を募集するのも、商店が店員を求めるのも、或は實業學校や師範學校が生徒募集するのも皆之に屬する。即ち仕事の方が定まつて居て、それに合ふ人を求めるのである。後者は人が職業を求めるので、職業紹介所に毎日押し掛けてゆく多くの人はそれである。即ち人は居るがまだつくべき職業は決定して居ないのである。この場合前者を適性考査といひ、後者を適職指導といふ語彙で區別する事になつて居る。強いて區

別すれば前者は産業界の仕事で後者は教育界の仕事である。前者は産業界のための施設で後者は人間のための仕事だとも考へられる。

ところで前者は兼てなすべき職業が決定してそれに會ふ人を求めるのであるから、如何なる性能の人を要するかは限定されて居て、それに適する人を求めさへすればよいから比較的容易であるが、後者は人の性能個性の差の辨別が困難な上に職業が無數に分化して居るから適職を考へるといふ事が非常に困難となる。事實殆んど不可能とも考へられる程である。

#### 職業の數と分化

太古原人が水草を追ふて轉々して居た時代には唯自分等が生きてゆくのみで動物と何の差異もなかつた。住居を定めて遊牧から農牧時代に入つてもまだ各自己れの生活の資料を自然から採りて唯生存するに過ぎなかつた。この頃はまだ職業とは云はない。手工業時代となり衣食住の資料を交換して、互の便益をはかる頃から僅か小工分業がこり商業が初まつた。こゝに於て職業が出来たと見るのが至當であらう。それは人間の歴史幾萬年から見れば極めて近代の事らしい。

然るに十九世紀に於ける科學の異常の進歩は蒸氣機關の發明となり、電氣力利用の工夫となり、

これが交通通信機關の完成を促し、人智は非常に開發されて遂に現代の如き機械工業信用時代ともいふべき時代を現出せしめた。そこへ職業世襲の陋傳統から解放された人は人類の幸福のためにあらゆる文化的施設を考案した。かくて職業は非常の勢を以て分化して來た。しかも仔細に觀察すれば日々新職業が現出しつゝある有様である。

さて然らば現今職業の數は幾つ位あるかといふに人により研究により分類の態度により一定しないが、細かく分類すれば三萬位あると云はれて居る。大正九年第一回國勢調査の時の分類は次表の如く大分類十、中分類四十一、小分類二百五十二になつてゐる。しかしこの小分類といふは實はまだよほど包括されたもので其の中を更に細分類しなければ本當に職業指導適職指導の分類としては適當でない様である。例へば學校教師は全部『公務自由業』の中の『教育に關する業』の中の『學校に勤務する者』の中に含まれる。ところで學校に勤務する者となると、上は大學總長・大學教授より専門學校教授・中等學校の教諭・小學校の教師・幼稚園の保母から學校の書記小使看護婦等までも含む。同じ小學校教師といつても本科勤務と専科勤務とは大分事情も異なる。これ等一切を學校へ勤務する者として片付けるのであるから適職指導から見れば國勢調査の二百五十の分類はあまり役に立たなくなる。もつと細かく分ける必要がある。大抵三千位に分類すればいゝといふ。高峰氏



が其の職業指導表に於ての分類は大分類百六十一、小分類三千三百十六にして居られる。かくの如く其の数は非常に多く到底専門家でない限り其の總てをざつとでも知る事はむづかしい。

職業分類表 (大正九年十月國勢調査) 大・中分類

- 一 農 業
  - 1 農耕・畜産・蠶業
  - 2 林業
- 二 水 産 業
  - 3 漁業・製鹽業
- 三 鑛 業
  - 4 採鑛・冶金業
  - 5 土石採取業
- 四 工 業
  - 6 窯業
  - 7 金屬工業
  - 8 機械器具製造業
  - 9 化學工業
  - 10 纖維工業
  - 11 紙工業
- 五 商 業
  - 12 皮革、骨、角、甲、羽毛品類製造業
  - 13 木竹類ニ關スル製造業
  - 14 飲食料品、嗜好品製造業
  - 15 被服身廻り品製造業
  - 16 土木建築業
  - 17 製版、印刷、製木業
  - 18 學藝、娛樂、裝飾品製造業
  - 19 瓦斯、電氣及天然力利用ニ關スル業
  - 20 其他ノ工業
  - 21 物品販賣業
  - 22 媒介周旋業
  - 23 金融保險業
  - 24 物品貸貸業預リ業
  - 25 旅宿、飲食店、浴場業等

- 26 其他ノ商業
- 六 交 通 業
  - 27 通信業
  - 28 運輸業
- 七 公務、自由業
  - 29 陸海軍人
  - 30 官吏、公吏、雇傭
  - 31 宗教ニ關スル業
  - 32 教育ニ關スル業
  - 33 醫務ニ關スル業
  - 34 法務ニ關スル業
- 八 其他有業者
  - 35 記者、著述者
  - 36 藝術家
  - 37 其他ノ自由業
- 九 家事使用人
  - 39 家事使用人
  - 一〇 無 職 業
    - 40 收入ニヨル者
    - 41 無職業

適職指導の困難

かくの如く職業は非常に複雑に多くの種類に分化して居る。適職を指導するためには嚴密に云へば、指導者は是等の職業全部の業態と必要な性能とに付て知らねばならぬ事になる。これは到底不可能な事で適職指導は先づこゝに第一の難關にぶつつかる。次に人の性能などもそう容易にはつきりとわかるものではない。これまでの學問の進歩で人の知り得る性能といふもあやしげなもので、

ある程度までのものである。工夫された性能検査器械などもあるが、まだどれだけ確實なものか疑ひなき能はずである。こゝに適職指導の第二の難關がある。即ち人の性能もよくわからず、分化せる職業についてもよく知らずといふ事になる。これでは適職指導など出来るわけがない。更に第三の難關はたとへ適職だとして指導したとしても更に其の職業へ就くための紹介がうまくいかねば何にもならない事である。ところが職業への紹介もいつの時代に於ても中々容易な事でない。

更に適職は性能のみできまるべきでなく、其の人の希望や興味も考へねばならず、家庭の資力や家族的の事情もあり、一方職業の將來やそれが社會的貢獻如何等も考へねばならず、尙其の外にX Y Z 等人にわからぬ何物かも豫想される。これ等の條件も亦大切なものである。かく考へて來ると益々困難な事となる。

更に深く考へねばならぬものがある。それは人が人を捌く事の恐怖である。職業決定は人間一生の運命の十字路である。人間の運命を知り給ふは唯神のみである。教師が先輩だと物識り顔に人の子をあやまる事なきやと靜かに謙虛になり敬虔な心持で反省した時、誠に恐ろしき大事件ではないか。我等は適性だ不適性だとかんたんに物事を片付けては相濟まぬ事である。慎重を要する所以茲にある。

しかし困難だ、不可能だといつて居たでは初まらない。そこに尙ほ以上の諸注意を心にとめて攻究すればある程度の方法上の曙光は認められる筈である。次々の節に於てこれを明かにしよう。

## 第二節 職業選定の條件

職業を選択する條件として考ふべきは、先づ本人の性能・希望及び興味・資格及び學歷・境遇・家職・經濟事情・職業界の事情・職業の社會的意義等についてである。以下これ等に就て概説しよう。

### (一) 性能

性能といふ語はよく使はれるが甚だ漠然としてゐる。身體精神上の性質及び能力といった意味で別の言葉で個性といつてもよい。唯個性の職業的に働く方面全部の總稱と考へてよからう。即ち身體狀況・一般知能・氣質性格・學業成績・特技特能等の總稱である。これ等は職業選定上特別大切な條項である。随つてこれに就ては節を改めてくわしく書く事にする。

## (二) 興味希望

性質能力が如何に其の職業に適したとしても自己の希望でなく、全く興味の向かない事については到底成効するものでない。いや／＼に仕事をする程能率の上らない事はない。人は器械ではない精神の持主である。生命の源泉は其の精神の奥底に充滿して流れて居る自己満足の心でなければならぬ。不快でやる事は自己の生の否定だとさへ考へられる。唯一時の見掛け上の好悪や希望が人間をまよわす事もあるものだといふ事は心得ねばならない。

## (三) 資格學歷

世の中には一定の資格といふ制限のある職業と、そうでない職業とがある。醫師になる爲めには一定の資格がなければならぬ。而して之れは醫科大學卒業といふ學歷を要する事になつて居る。藥劑士となるにも亦一定の資格が入り、高等官になるにも、外交官になるにも、司法官になるにも、辯護士になるにも、學校教師になるにも皆一定の資格がなければならぬ。中には是非一定の學歷を必要とするものもあるが資格認定の試験のあるものもある。一般に資格や學歷で職業の特権を與

へるのは舊式な時代錯誤なやり方で、實力さへあれば誰でも就ける自由競争を許す方法が進歩したやり方であるが、其の實力を認定するのが資格試験となつて居るのである。だから適職指導の場合に於て或は進學指導の場合に於て資格と學歷とを考慮に入れねばならぬ事は明瞭である。

## (四) 境遇

長男で家督を繼ぐべき者と、二男三男で家を出づべきものとは其の職業選定の態度をかへねばならぬ。大體長男は特別の事情のない限り其の家職を繼ぐを本體として考ふるがよい。但し家の職といつたとして父が官吏や教員藝術家等の如き公務や自由業等の場合は必ずしも父の職をつぐといふものでもないが、農業をやつて居るとか、店舗を持つて商業をやり相當の信用を捷ち得て居る如き場合それを捨て、新職業へと走るは考へものである。二男三男となると家職に就てはあまり考慮するに當らない。極めて自由の態度で選職してよからう。

又家庭の資産状況や、父母の有無、扶養家族のありなし等色々家庭事情によつて其の職業選定の態度を換へねばならぬ。

## (五) 經濟

家庭の資産状態によつて就職する職業を考へねばならぬ事は前項にも述べた。學歷や資格を要するものは其の學歷を得るためには相當の學資が入用である。又職業の種類によつては相當の資本の入るものもある。家庭の經濟事情を考慮に入れなければならぬ事は明瞭である。

又職業を考へる時収入を考へないものはない。職業は一面社會の仕事の分擔であるが、又一面其の生活の資料を得るためのものであるからである。而して職業の中には商工業の如く産業の發展を指しつゝも直接利益を目的とするものと、官公吏や教育家・軍人・宗教家・新聞記者等の如く利益を直接の目的とするでなく社會的活動を指し、報酬は一家扶養の資として與へらるゝ性質のものがある。職業を指導する場合これ等の意味もよく理解せしめなければならぬ。

## (六) 職業界事情

職業の中には人力車夫の如き過去の職業と自動車運轉手の如く現在の職業と飛行士の如き未來の職業とがある。少し奇矯ないひ方であるが藝者は過去に屬し、カフェー女給は現在に屬し、エヤーガ

ールは未來に屬すとも云ふべきか。兎に角職業界も動物界同様に進化をなし榮枯盛衰のあわれをとどめてゆく。隨て青少年少女へ一生の職業方針を定めさす限りはよほど大局に着眼して、未來の趨勢を察する必要がある。唯現在目の前の職業のみに眩惑されてはならない。同じ商業にしても一方デパート式の大商店に合併さるゝ運命にあると共に部分品専門の店も亦出来る様な相反する大きな傾向が認められる。こんな事もよく指導して他日失望する事なき様させなければならぬ。

## (七) 社會的意義

職に貴賤の別なし。どんな仕事も必要によつて生れ來るもので社會に存在する限りに於て存在理由があるにちがひない。しかし社會の幸福とか秩序とか人々の幸福利益等の考へに於て其の價値を考へた時必ずしも同等とはいへない。カフェーや麻雀俱樂部や何々曖昧屋の如く常に官憲の注視圈内に置かねば罪惡がかもされるであらうと考へらるゝ様な仕事は、あまりいゝ仕事とは考へられない。同じ女性の職業にしても女給だのステッキガールだのと變なものが出來て居るがこれ等は社會的に必要か知れないが價値高しとは考へられない。之にひきかへて宗教家として世道人心の頹廢を救はんと立つ職業、學術の蘊奥に深入りして文化の建設にいそしむもの等々は其の社會的價値は極